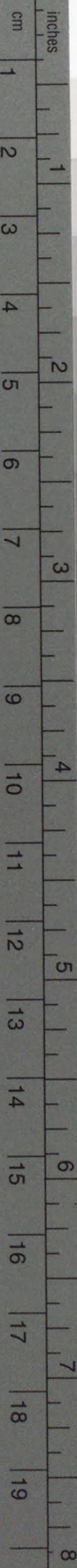


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

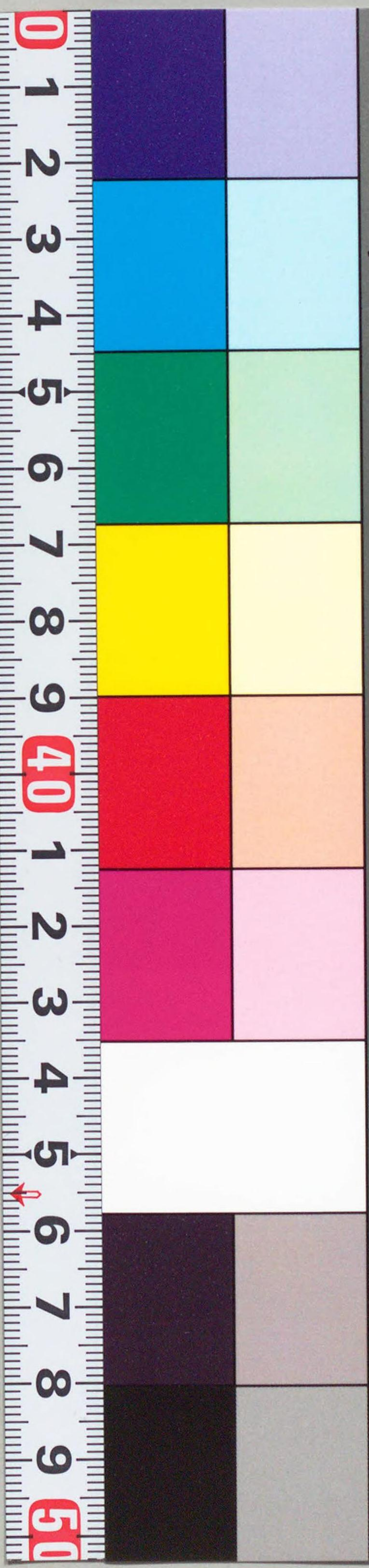
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



6710
14

No. 7



C471-H4
1200600091225

瑞典諾威及芬蘭土諸國船員法

遞信省管船局

C471

H4

本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫
ニ代ヘタルニ止マリ公刊スル趣旨ニアラス

昭和四年五月

遞信省管船局海員課



I種
W



1200600091225

瑞典諾威及芬蘭土諸國船員法

目次

○瑞典船員法

第一章 船長ノ契約……………一頁

第二章 乗組員ノ契約……………三頁

 契約ノ締結……………三頁

 契約ノ有効期間……………四頁

 給料……………六頁

 疾病中ノ治療及葬式……………八頁

 船長ノ海員雇止權……………一〇頁

 海員ノ雇止請求權……………一二頁

 船舶ノ滅失ニ因ル契約ノ終了……………一四頁

 外國及瑞典海員ニ對スル待遇ノ平等……………一五頁

 勤務條件ニ關スル爭議……………一五頁

第三章 船内勤務……………一五

 船舶ノ指揮……………一五

 勤務中ニ於ケル一般的義務……………一七

 職務ニ就クコト、之ヲ離ルルコト及船内ニ貨物ヲ搬入スルコト……………一七

 船内労働、食糧及衛生條件……………一九

 船舶検査要求權……………二〇

 實力ノ行使……………二一

第四章 懲戒……………二二

第五章 本來ノ意味ノ所謂乗組員ニ屬セサル乗船者……………二七

第六章 刑罰ヲ科セラルヘキ責任ニ關スル規定……………二七

第七章 裁判所及訴訟手續……………三一

○諾威船員法……………三三

 第一章 船長ノ契約……………三三

 第二章 海員ノ契約……………三五

 第一節 雇入……………三五

 第二節 契約有効期間……………三六

 第三節 給料……………三八

 第四節 疾病中ノ治療及埋葬……………四〇

 第五節 海員ノ雇止ニ關スル船長ノ權利……………四二

 第六節 海員ノ雇止請求權……………四四

 第七節 船舶喪失ニ基ク契約終了……………四五

 第八節 外國人海員……………四六

 第九節 争議……………四六

 第三章 船内服務……………四六

 第一節 船舶ノ指揮……………四六

 第二節 服務中ニ於ケル一般任務……………四八

 第三節 職務ニ就キ、職務ヲ離レ及船内ニ物品ヲ持込ムコト……………四八

 第四節 船内労働、食糧及衛生條件……………五〇

 第五節 耐航力ノ検査……………五一

 第六節 實力ノ行使……………五一

第四章 紀律罰	五二
第五章 船員外ノ乗船者	五五
附則	五六

○芬蘭土船員法

第一章 船長ノ契約	五七
第二章 乗組員ノ契約	五九
契約ノ締結	五九
契約ノ有効期間	六一
給料	六二
疾病中ノ看護及埋葬	六五
海員ヲ雇止ムル船長ノ權利	六七
雇止ヲ請求スル海員ノ權利	六九
船舶ノ滅失ニ基ク契約ノ解除	七一
外國海員及芬蘭土海員ニ對スル待遇ノ平等	七二

勤務條件ニ關スル爭議	七二
第三章 船長及乗組員ノ義務	七三
船舶ノ指揮	七三
海員ノ一般職務	七四
職務ニ就クコト、之ヨリ離ルルコト及船内ニ物品ヲ搬入スルコト	七五
船内労働、糧食及衛生條件	七六
船舶ノ検査ヲ要求スル權利	七七
實力ノ行使	七八
第四章 懲戒	七九
第五章 所謂乗組員ニ屬セサル乗船者	八三
第六章 罰則	八四
第七章 雜則	八八

○芬蘭土船員雇傭契約規則

○船舶遭難ノ場合動産ヲ喪失シタル芬蘭土人乗組員ニ爲ス	九〇
----------------------------	----

○賠償原則ニ關スル樞密院ノ決議……………100

○英國士議員亞爾曼侯爵ノ議……………100

第一章 總則……………108

第二章 賠償……………114

第三章 賠償請求權ノ行使……………123

第四章 賠償額ノ算定……………131

第五章 賠償ノ擔保……………138

第六章 賠償ノ執行……………145

第七章 賠償ノ免除……………152

第八章 賠償ノ其他……………159

第九章 附則……………166

第十章 終則……………173

第十一章 附則……………180

第十二章 附則……………187

瑞典 船員法

(一九二二年六月十五日)

第一章 船長ノ契約

第一條 船舶所有者ハ船長ノ雇入條件ニ關シ契約書ヲ作成スヘシ

第二條 雇入ノ有効期間ニ關シ何等ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其ノ契約ハ當事者ノ一方カ告知シタル後三箇月ヲ經過シ其ノ船舶カ荷積又ハ荷揚ノ爲寄港スル瑞典ノ港ニ於テ終了スルモノト看做ス但シ船長カ一年間(帆船ノ場合ニ在リテハ一年半)其ノ船舶ニ服務シ其ノ告知後三箇月ヲ經過シタルトキハ其ノ船舶カ荷積又ハ荷揚ヲ爲ス外國ノ港ニ於テモ亦解約ヲ爲ス權利ヲ有ス

第三條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ノ指揮權ヲ免スルコトヲ得

船長カ契約期間滿了前第四條又ハ第五條ニ掲クル理由ノ一ニ該當セスシテ罷免セララルトキハ船長ハ之ニ依テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有ス

損害ニ關シ特ニ申出ヲ爲ササルトキハ船長ハ三月分ノ給料並勤務ノ終了地トシテ契約ニ明示セラレタル場所、又第二條ノ適用ニ依リ外國ニテ解雇セララルトキハ瑞典ノ最寄ノ港迄ノ無賃運送及其ノ期間ノ生

一

活費ヲ請求スルコトヲ得

第四條 船長疾病又ハ傷害ノ爲船舶ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタルニ依リ解雇セララルトキハ退職後三月分ノ給料ヲ受クル權利ヲ有ス

船長重大ナル過失ニ因リテ疾病若ハ傷害ヲ蒙リ又ハ勤務中其ノ過失ヲ隱蔽セルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス此ノ場合船長ハ勤務シタル期間ヲ超ユル期間ニ對スル給料ヲ受クル權利ヲ有セス

第五條 船長其ノ職務ヲ行フニ就キ無能、不正直、重大ナル過失又ハ重大ナル懈怠ノ爲ニ雇止ラレタルトキハ勤務シタル期間ヲ超ユル期間ニ對スル給料ヲ受クルヲ得ス

第六條 船舶海難ニ罹リ滅失シ又ハ海難後修復不可能ナリト宣言セララルトキハ契約ニ特別ノ條項ヲ含マサル限り其ノ契約ハ終了ス但シ船長ハ其ノ給料及食費ヲ受ケ勤務ヲ繼續シ船舶及荷物ニ關スル事件ヲ處置スル義務アルモノトス

海員ニ關スル第四十一條ノ規定ハ航海中ノ給料ト食費及或ル失ハレタル財産ニ對スル賠償ト共ニ無料歸宅乗船券ヲ受取ル船長ノ權利ニ關シテモ適用スヘキモノトス

第七條 海員ニ關スル第二十四條、第二十八條及第三十條ノ規定ハ死亡疾病ノ場合ニ於ケル施藥ト無料歸宅乗船券及葬儀ノ場合ノ給與ニ關シテモ同様ニ適用スヘキモノトス

第八條 船長カ船舶ノ收得スル運賃若ハ航海中ニ於ケル其ノ他ノ收益ノ分配(船長謝金増賃)又ハ船舶所有

者ノ利潤ノ分配(手数料)ヲ受クル權利ヲ有シ且契約カ航海又ハ會計年度ノ終了前ニ滿了スルトキハ船長ハ斯クノ如クシテ保證セラレタル報酬ノ内全航海又ハ全會計年度ニ比例シテ計算スヘキ勤務期間ニ相當スル部分ヲ受クル權利ヲ有ス船長カ第三條、第四條、第六條又ハ第七條ニ從ヒ其ノ勤務シタル以上ノ期間ニ對スル給料ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ退職後ノ期間ニ對スル前記ノ報酬ハ一等運轉士ノ給料ノ二倍ヨリ船長ノ分トシテ定メラレタル給料ヲ差引キタル金額ニ等シキモノトス

第二章 乗組員ノ契約

契約ノ締結

第九條 船長ハ船舶所有者ニ代リテ船舶ノ乗組員即チ職員並海員ヲ雇入ルルコトヲ得

船長ハ機關部乗組員ヲ雇入ルル場合ニハ機關長ト協議スルヲ要ス

第十條 十四歳未滿ノ少年ハ之ヲ船舶ニ雇入ルルコトヲ得ス又十六歳未滿ノ者ハ之ヲ火夫トシテ雇入ルルコトヲ得ス

第十一條 海員カ雇入ラレタルトキハ船長ヨリ商務院ノ指定シタル形式ニ從ヒ作成セラレタル給料手帖ノ交付ヲ受クヘシ該手帖ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

一 海員ノ氏名、生年月日、出生地、原籍

- 二 海員カ雇入レラレタルトキノ階級
 - 三 契約ニ定ムル航路、期間、雇止地及告知期間
 - 四 契約シタル給料及若シ給料カ航海ヲ單位トシテ定メラルルトキハ其ノ航海ニ要スル期間ノ見積
 - 五 法律ニ規定ナキ場合契約セラレタル時間外給料
 - 六 其ノ他一切ノ雇入條件
- 雇入ノ開始及終了契約解除ノ告知並其ノ時日ハ之ヲ給料手帖ニ記入スヘシ海員ノ收得シタル時間外給料並發生シ又ハ控除セラレタル給料又ハ時間外給料ノ部分亦同様ニ給料手帖ニ記入スヘキモノトシ又右ノ支拂ヲ定メラレタル以外ノ通貨ヲ以テ爲シタル場合ニハ其ノ爲替相場ノ割合ヲ記載スヘシ
- 契約カ團體契約ニ基キテ爲サレタルトキハ船長ハ當該團體契約ノ寫ヲ船内見易キ場所ニ備付クル様注意スヘシ
- 國王ニ依リ發布セラルル諸規則ハ海員ノ雇入及雇止並其ノ關聯手續ニ之ヲ適用ス

契約ノ有効期間

第十二條 海員カ明示セラレタル期間雇入ラレ又ハ明示セラレタル告知ニ服スヘキ場合ニシテ其ノ期間カ航海中ニ滿了スルトキハ其ノ契約ハ船舶カ荷積又ハ荷卸ノ爲次ノ港ニ到着スル迄ハ其ノ效力ヲ繼續スルモノトス

第十三條 契約ノ有効期間ニ關シ何等ノ相互契約ヲ爲ササリシトキハ當事者ノ一方ハ船舶カ荷積又ハ荷卸ノ爲寄航スル港ニ於テ契約ヲ終了セシムル告知ヲナス權利ヲ有ス但シ海員カ瑞典人ニシテ且瑞典ニ於テ雇入レラレシトキハ契約ヲ終了セシムル告知ハ瑞典ノ荷積又ハ荷揚港ニ於ケル以外ノ地ニ於テハ當事者之ヲ爲スコトヲ得ス

告知ノ期間ハ海員カ職員ナルトキハ一箇月普通海員ナルトキハ一週間トス

第十四條 海員カ特定期間又ハ航海ノ爲ニ雇入レラレ且其ノ期間又ハ航海ノ終了後新ナル契約ヲ爲サスシテ猶同一ノ職務ニ從事スルトキハ當事者ノ一方ハ其ノ船舶カ荷積又ハ荷卸ヲ爲ス港ニ於テ其ノ契約ヲ終了セシムル爲第十三條第二項ニ掲クル告知ヲ爲ス權利ヲ有ス

第十五條 最後ノ雇入以來一年、帆船ニ在リテハ一年半船舶ニ於テ勤務シタル海員ハ瑞典ノ港ニ於ケル契約ノ終了ニ關シ契約ニ定メラレ又ハ第十三條ニ規定サレタル何等ノ反對規定ニ拘ラス第十四條ニ定ムル告知ヲ爲ス權利ヲ有ス

第十六條 契約自體又ハ本章ノ規定ニ基キ契約ヲ解除スル權利ヲ有スル海員ハ船舶カ港ニ到着シタル場合ニ爲ササルヘカラサル仕事ニ助力スル爲ニ勤務ヲ繼續スル義務ヲ有ス但シ到着日後二日間（帆船ノ場合ニハ四日間）以内ニ限ル宣言ヲ下サルヘキモノナルトキハ海員ハ給料及衣食ヲ支給セラレテ當該宣言カ下サルル迄其ノ地點ニ殘留スル義務アリ

第十七條 海員カ雇止ラレサルヘカラサル外國ノ地ニ於ケル官憲カ海員ノ當該外國ニ入ルコトヲ許可セサル場合又ハ入國ノ爲海員ノ提供シ得サル保證ヲ要求セラルル場合ハ其ノ船舶カ雇止ニ關シテ斯ノ如キ障害ノ存在セサル地ニ到着スル迄勤務ヲ繼續スル義務アルモノトス

給料

第十八條 給料ハ海員カ船内ニ於テ其ノ仕事ヲ始ムル當日ヨリ又海員カ雇入地ヨリ其ノ船舶ニ到ル爲旅行スルヲ要スルトキハ其ノ旅行ヲ始ムル當日ヨリ支給セラル

給料ハ海員カ其ノ職ヲ去ル日(其ノ當日ヲ含ム)迄又ハ乗組員カ雇止ラルルトキハ請求權カ本章ノ規定ニ依リ其ノ以前ニ停止セラレサル限り雇止ノ日(其ノ當日ヲ含ム)迄支給セラル

給料ハ海員カ不法ニ仕事ヲ爲ササル期間ハ之ヲ支給セス

一箇月ニ滿タサル部分ニ對スル給料計算ヲ爲ス爲ニハ一箇月ハ三十日トシテ計算ス

第十九條 海員ハ其ノ船舶カ港ニ碇泊中ニ於テ且多クモ一週一回ニ限り給料ノ支拂ヲ要求スル權利ヲ有スル給料ハ海員カ船舶所有者宛ノ爲替手形ヲ要求セサル限り現金ヲ以テ支拂ハルヘキモノトス支拂ハ問題ノ場所ニ於ケル金融機關カ爲替相場ニ依リ其ノ給料トシテ定メラレタル通貨ニ代ヘテ支拂フヘキ其ノ地方ノ通貨ヲ以テ要求スルコトヲ得

外國ヨリ瑞典ニ其ノ給料ノ一部ヲ送ラントスル或ル瑞典ノ海員ハ國王ニ依リテ發布セラレタル規則ニ從

ヒ此ノ目的ノ爲ニ無料ニテ瑞典領事ノ援助ヲ受クル權利ヲ有シ國家ハ斯カル送金ニ責任ヲ負フモノトス
第二十條 海員ハ毎月一定ノ割當ニ從ヒ瑞典ニ於ケル特定人ニ其ノ給料ノ一部ヲ支拂ヒ又ハ當該船員ノ名ヲ以テ瑞典ノ銀行ニ貯蓄セラルルコトヲ要求スル權利ヲ有ス

其ノ割當金額ハ海員ノ同意ナクシテ減額セラルヘキニアラス但シ給料ノ殘額ヲ以テシテハ其ノ海員ニ課セラレタル罰金又ハ船舶所有者ノ請求スル賠償額ヲ支拂フ能ハサル程度ノモノナル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 船長ハ海員カ退職スル迄毎支拂日ニ於テ海員ノ受取ルヘキ現金給料ノ三分ノ一ヲ手許ニ保留スル權利ヲ有ス但シ保留セララルル金額ハ何時ニテモ一箇月分ノ給料ノ半額ヲ超ユヘカラス

第二十二條 給料カ航海ニ對シ一定額ニ定メララルトキハ豫想セララルル航海ノ繼續期間ニ關シテ給料手帖ニ爲シタル記載ハ一定期間ノ給料ヲ計算ノ必要アルトキハ其ノ計算ノ標準トナル

航路ヲ變更シ其ノ結果航海カ雇入ノトキニ豫想セラレタルヨリモ延引スルコトカ判明シタルトキハ海員ハ其ノ給料ニ比例スル増額ヲ受クル權利ヲ有シ航海カ他ノ原因ニ依リ延引セララルトキハ超過シタル時間ニ對シ雇入ノ場所ニ於ケル一月分ノ給料ヲ基礎トシテ計算セラレタル追加給料ヲ支拂フヘシ航海カ豫定セラレタル時間ヨリモ短縮セララルトキハ契約セラレタル給料ハ其ノ全額ヲ支拂フヘシ

第二十三條 航海中乗組員ヲ減シタルトキハ斯クシテ其ノ船舶カ航海中節約セラレタル時間ニ對スル給料ハ各自ニ指定セラレタル増加セル仕事ニ比例シテ殘餘ノ乗組員ノ間ニ分配セララルヘシ

第二十四條 海員カ死亡セルトキハ死亡ノ日(其ノ當日ヲ含ム)迄ノ給料ヲ支拂フヘシ但シ給料取得ノ權利カ本章ノ規定ニ基キ其ノ以前ニ停止セラレサルコトヲ要ス船舶及乗組員カ滅失シ其ノ滅失ノ日又ハ少クトモ滅失シタルモノト認メラルヘキ日ニ關シ報告ヲ得ルコト能ハサルトキハ給料計算ノ目的ノ爲ニハ其ノ海員ノ死亡カ船舶ノ性質及季節ヲ斟酌シ其ノ船舶ニ付最後ノ消息アリタル場所ヨリ目的地迄ノ航海ニ對シテ必要ナリト理論的ニ認メラレ得ル時間ノ終了ノ際ニ起レルモノト看做ス

第二十五條 計算ノ最後ノ決定ニ於テ海員カ前金トシテ當然取得スヘキ額ヨリモ多クノ金額ヲ受取り居リシコト判明スルトキト雖若第二十四條、第三十二條(第一項)、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ雇止メラルル場合ハ受取りタル金額ハ之ヲ保留スル權利ヲ有ス

疾病中ノ治療及葬式

第二十六條 海員ハ船長ノ要求アルトキハ身体検査ヲ受クル義務ヲ負フ但シ海員ハ之ニ因リ費用ヲ請求セラルルコトナシ

第二十七條 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷害ヲ受ケタルトキハ船長ハ船内又ハ陸上ニ於テ必要ナル手當ヲ受クル様注意スヘシ右ノ手當ハ衣食、治療、醫藥等ヲ含ム

海員カ船内ノ他ノ海員ニ及ホスヘキ危険アル疾病ニ罹リタリト認ムヘキ理由アルトキハ船長ハ若シ可能ナルトキハ其ノ患者ヲシテ診察ヲ受ケシムヘシ船内ニ於テ傳染ニ對スル適當ナル豫防手段ヲ講シ得サルト

キハ船長ハ患者ヲ上陸セシムヘシ

疾病ニ罹リタル海員又ハ傷害ヲ受ケタル海員カ自ラ其ノ動産ヲ管理シ得サルトキハ船長之ヲ保管スヘシ
疾病ニ罹リタル海員又ハ傷害ヲ受ケタル海員ヲ外國ニ殘ストキハ船長ハ瑞典領事ニ委託シ若其ノ地ニ瑞典領事不在ラサルトキハ他ノ方法ヲ以テ適當ナル保護ヲ保證シ且最寄ノ瑞典領事ニ對シ其ノ採リタル處置ニ就キ通知スヘシ

第二十八條 海員ノ爲ノ疾病中ノ治療費ハ其ノ海員カ勤務ニ在ル限リ船舶所有者之ヲ支辨スヘシ疾病ニ罹リタル海員又ハ傷害ヲ受ケタル海員カ勤務期限ノ終了ニ際シテ退職シ又ハ第三十三條ニ掲クル以外ノ理由ニ依リ其ノ以前ニ雇止メラルルトキハ其ノ海員ハ雇止後六週間(瑞典人ニシテ且海外ニテ保護ヲ受クルトキハ十二週間)以内ニ限リ船舶所有者ノ出費ニ於テ治療ヲ受クル權利ヲ有ス雇止ラレサルトキハ右期間ハ船舶出航ノ日ヨリ之ヲ起算ス最後ノ場合ニ於テハ外國ニ於テ退職スル瑞典ノ海員ハ更ニ衣食ト共ニ瑞典ニ於ケル本籍マテノ無賃送還ヲ受クル權利ヲ有ス瑞典又ハ歸國ニ便宜ナル地ニ向フ船舶ニ於テ職務ヲ提供シ得ル場合ハ右海員ハ當該職務ヲ引受クル義務アリ但シ健康狀態カ之ニ堪エ得又前ニ雇入レラレシモノト同等ノ等級ニ於テ且同等ノ條件ヲ以テ雇入レラルルコトヲ要ス
前掲ノ規定ハ重大ナル過失ニ依リ疾病若ハ傷害ヲ蒙リ又ハ雇入ノ場合其ノ事實ヲ隱匿セル海員ニハ適用セス斯カル場合ハ海員自ラ疾病中ノ治療費ヲ支辨スル義務ヲ負ヒ又無賃送還ヲ受クル權利ヲ有セス本項

ニ定ムル船舶所有者ノ出費ハ其ノ海員ノ給料ヨリ差引クコトヲ得
瑞典ノ海員カ傳染ノ虞アル程度ノ花柳病ノ爲ニ外國ニ殘サルルトキハ契約解除後ニ於ケル期間中ノ病院
ノ手術、治療、醫藥等ノ費用ハ國王ニ依リ發布セラレタル規則ニ從ヒ國庫ヨリ支辨サルヘキモノトス

第二十九條 海員カ死亡シタルトキハ船長ハ葬式ノ準備ヲ爲シ其ノ最近親者ニ報告スヘシ
船長ハ亦船内ニ在ル死亡者ノ遺産ノ目錄ヲ作成セシメ又其ノ財産ヲ其ノ相續人又ハ其ノ代理人ニ引渡ス
様注意スヘシ死亡カ外國ニ於テ發生シ其ノ財産ヲ船内ニ保管スルトキハ損害ヲ生シ又ハ不便ナルトキハ
之ヲ最寄ノ瑞典領事ニ引渡シ又ハ適當ナル方法ヲ以テ賣却スヘシ後者ノ場合ニハ船長ハ瑞典ノ港ニ到
着後遲滞ナク船籍港ニ於ケル海員署(Ombudsmannen vid sjömanshuset)長ニ賣上金ノ支拂ヲ爲スヘシ

第三十條 海員ノ葬式ノ費用ハ海員在職中死亡シタル場合ハ船舶所有者之ヲ支辨ス海員カ雇止ラレタル後
ニ死亡セルモ未タ船舶所有者ノ費用ヲ以テ治療ヲ受クル權利ヲ有スル間ニ死亡セルトキ亦同シ
第三十一條 船長カ瑞典領事ノ助力ヲ得ル能ハサル地ニ於テ瑞典海員ノ疾病ノ治療又ハ葬式ニ關シ船舶所
有者ノ責任ニ屬セサル支出ヲ負擔シタルトキハ國庫ヨリ當該支出ノ拂戻ヲ受クル權利ヲ有ス

船長ノ海員雇止權

第三十二條 海員カ疾病又ハ傷害ノ結果相當期間其ノ任務ヲ盡シ得サルトキ又ハ船内ニ在ル者ニ危險ヲ及
ホス疾病ニ罹リタルトキハ船長ハ其ノ海員ヲ雇止ムル權利ヲ有ス後者ノ場合ニ於テハ其ノ服役シタル全

期間ニ對スル全額ノ給料ノ外其ノ海員カ職員ナルトキハ二箇月分ノ給料普通海員ナルトキハ一箇月分ノ
給料ヲ受クル權利ヲ有ス

海員カ重大ナル過失ニ依リ疾病若ハ傷害ヲ蒙レルトキ又ハ雇入ノ際之ヲ隱蔽セルトキハ服役シタル期間
ニ對スル給料ノミヲ受取ル權利ヲ有ス

第三十三條 尙船長カ海員ヲ雇止ムル權利ヲ有スヘキ場合左ノ如シ

- 一 海員カ雇入レラレタル任務ヲ履行スル能力ナキコト判明セルトキ
- 二 海員カ成規ノ時間ニ乗船セス船舶カ其ノ補充ヲ爲サスシテ出帆セサルヲ得ス又ハ之ニ代ヘテ他ノ者
ヲ雇入レサルヲ得サルトキ
- 三 海員カ上長ノ命令ニ服従スルコトヲ反復シテ拒絕シ、上長ニ加害シ、船内ノ他ノ者ヲ虐待シ又ハ服

務中反復シテ酩酊スルカ如キ職務上ノ重大ナル懈怠ヲ犯セルトキ

四 海員カ匪行、竊盜若ハ其ノ他ノ重大ナル犯罪ヲ犯シ又ハ有税ノ貨物若ハ其ノ船舶ノ出帆スル港ヨリ
輸出シ若ハ到着港ヘ輸入スルコトヲ禁セラレタル貨物ヲ船内ニ隱匿セルヲ發見セラルルトキ

船内ニ在ル海員カ前項ノ理由ニ依リ雇止メラルルニ先チ可能ナルトキハ第六十四條ニ規定スル尋問ヲ行
フヘシ

本條ニ依リ雇止ラレタル海員ハ服役シタル期間ヲ超ユル給料ヲ受クル權利ヲ有セス

第三十四條 海員カ第三十二條及第三十三條ニ掲クル理由ニ依ラスシテ雇止メラルルトキハ之ニ因リテ生
スル損害ノ賠償請求權ヲ有ス

損害ニ關スル申立書ノ提出ナキ場合ハ其ノ海員カ職員ナルトキハ二箇月分ノ給料普通海員ナルトキハ一
箇月分ノ給料及契約ニ定メタル雇止ノ地迄衣食附ニテ無賃送還ヲ受ケ又ハ瑞典ノ港ニ於ケル契約解除ニ
關シ第十三條ノ規定カ適用セラレ且海員外國ニ於テ雇止メラルルトキハ最寄ノ瑞典ノ港迄ノ無賃送還ヲ
受クル權利ヲ有ス

海員ノ雇止請求權

第三十五條 海員カ船舶ノ指揮權ヲ得又ハ運轉士若ハ機關士ノ等級へ又ハ運轉士若ハ機關士ノ如ク現在ヨ
リモ高キ地位へ昇進シ得ル事實又ハ雇入後雇止ヲ受クル必要アル何等カノ事情發生シタルコトヲ明示ス
ルトキ海員ハ其ノ雇止ヲ請求スル權利ヲ有ス但シ船舶所有者ニ何等ノ費用ヲ増サシムルコトナク他ノ有
資格者ヲ自己ノ地位ニ補充スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於ケル給料ハ其ノ海員カ事實上勤務シタル期間ニ對シテ支拂ハルヘシ
第三十六條 惡性ノ傳染病カ船舶ノ目的港ニ於テ蔓延シ海員此ノ事實ヲ其ノ雇入レラレタル後迄知ラサリシ
トキハ——航海カ開始セラレサルトキハ即刻然ラサルトキハ其ノ事情ヲ知ルニ至レル後船舶カ寄航スル
第一ノ港ニ於テ——雇止ヲ請求スル權利ヲ有ス後者ノ場合ニ於テ給料ハ海員カ事實上勤務セル期間ニツ

キ支拂ハルヘシ

船舶カ交戰國ニ捕獲セラレ若ハ戰爭上ノ損害ニ曝サルル危險アル場合又ハ其ノ危險カ事實上増大セル場
合亦同シ

第三十七條 海員カ特定航海ノ爲ニ雇入レラレタルモ航程カ事實上變更サルル場合ハ——航海ノ開始セサ
ルトキハ即刻然ラサル場合ニハ變更ヲ知ルニ至レル後船舶カ寄航シタル第一ノ港ニ於テ——其ノ雇止ヲ
請求スル權利ヲ有ス

海員カ航海ノ變更ノ爲ニ退職シタルトキハ其ノ海員カ職員ナルトキハ一箇月分ノ給料普通海員ナルトキ
ハ半箇月分ノ給料ヲ限度トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得海員ハ更ニ航海開始前退職セルトキハ雇
入レラレタル地迄其ノ他ノ場合ハ雇止地迄ノ無賃送還及衣食ノ給與ヲ請求スル權利ヲ有ス損害ニ關シ特
ニ申立ナキトキハ海員ハ本條定ムル最高賠償額ヲ受クル權利ヲ有ス

第三十八條 船舶カ當該航海ニ對シ堪航狀態ニアラサルトキ、艤裝甚シク不完全ナルトキ、乗組員不足ナル
トキ、過重ニ若ハ不適當ニ積荷セラレ若ハ不適當ニ底荷ヲ積マレンソノ爲ニ航海中船内ニ在ル者ノ生命ニ
危険ヲ及ホス虞アルトキ又ハ乗組員ノ設備カ航海ノ開始ニ當リ明カニ健康ニ害アルモノナルニ拘ラス船
長カ現存ノ缺陷及弊害ヲ匡正スルニ必要ナル處置ヲ取ラサルトキハ海員ハ雇止ヲ請求シ且第三十四條ニ
規定スル賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

船長カ第五十九條ノ規定ニ反シテ船舶ノ検査ノ要求ニ應セサルトキ亦同シ

第三十九條 海員カ船長ヨリ虐待セラレ、船内ノ他ノ者ニヨリ虐待セラレ之ヲ船長ニ訴フモ其ノ保護ヲ受クルコトナキ事實又ハ船長カ成規ノ食物ヲ與ヘサリシ事實ヲ示ストキハ海員ハ雇止ヲ請求シ且第三十四條ニ規定スル賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

第四十條 船舶カ外國人ニ賣却セラレ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ瑞典ノ船籍ヲ失フトキハ海員ハ雇止ヲ請求シ且第三十四條ニ規定スル賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

船舶所有者ニ於ケル其ノ他ノ變更又ハ船長ノ變更アルモ海員ノ退職スヘキ法律上ノ原因タラス

船舶ノ滅失ニ因ル契約ノ終了

第四十一條 船舶カ海上ニ於ケル事故ニ因リ滅失シ又ハ海上ニ於ケル事故ノ後修繕不能ヲ宣言セラルルトキハ海員ノ契約ハ反對ノ規程ナキ限り效力ヲ失フ但シ海員ハ給料及衣食ヲ支給セラレテ救助作業ニ加ハリ宣言カ下サル迄其ノ場所ニ留マル義務ヲ有ス

船舶ノ滅失ニ因リ外國ニ於テ瑞典ノ海員カ雇止メラルルトキハ航海中給料及衣食ヲ給セラレ瑞典ニ於ケル住所迄無賃ニテ送還セララルル權利ヲ有ス海員ノ送還及衣食ノ費用ハ國庫ヨリ支辨セラル然レトモ海員ハ第二十八條第一項ノ規定ニ從ヒ他ノ船舶ニ於ケル仕事ヲ承諾スル義務ヲ有ス

瑞典ノ海員ハ國王ニ依リ規定セラレタル規則ニ依リ船舶カ滅失シタルトキニ受ケタル財産ノ損失ニ對シ

船舶所有者ヨリ賠償ヲ受クル權利ヲ受ヲ有ス

外國及瑞典海員ニ對スル待遇ノ平等

第四十二條 國王ハ互惠條約ニ基キ第二十八條及第四十一條ニ依リ瑞典海員ニ保證セラレタル利益ヲ外國

海員ニ擴張スル命令ヲ發スル權能ヲ有ス

勤務條件ニ關スル爭議

第四十三條 海員カ雇止ニ際シ船長ノ作成シタル計算書ニ不服ナルトキハ登記官吏ニ其ノ正否ノ檢定ヲ要求スルコトヲ得

船舶カ瑞典以外ノ地ニ在ルトキ勤務條件ニ關シ船長ト乗組員ノ間ニ爭議發生シタルトキハ其ノ爭議ハ解決ヲ求ムル爲當該地方ニ於ケル瑞典領事若領事在ラサル場合又ハ領事カ干與スルコト態ハサル場合ニハ航海中ニ遭遇セル次ノ瑞典領事ニ之ヲ附託スヘシ

登記官吏又ハ領事ノ決定ハ其ノ事件カ瑞典裁判所ノ審理ニ繫屬スル迄有效トス

第二章 船内勤務

船舶ノ指揮

第四十四條 船長ハ船中ニ於テ最上ノ權限ヲ有ス

第四十五條 船舶ノ操縦及之ニ關スル觀測ト計算ニ付船長ヲ援助スルコトハ第四十七條ニ於テ別ニ定ムル

場合ヲ除キ乗組員竝一切ノ屬具及艙裝ト共ニ船舶ヲ監督スルコト、荷積及荷揚ヲ監督シ荷物ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ之ヲ保管スルコト竝荷物及貯藏品ノ積込ヲ監督スルコトハ運轉士ノ特別ナル任務トス

海法 (Maritime Code) ノ規定ハ船舶ノ航海日誌ノ保管ニ關スル運轉士ノ責任ニ關シ適用セラル

第四十六條 船長カ不在ナルカ又ハ勤務シ得サルトキハ運轉士 (二人以上ノ運轉士存スル場合ハ其ノ當時船内ニ在ル上席者) ハ船長カ未タ指揮セサル事項ニシテ遲滯ヲ許ササルモノニ關シ命令ヲ爲ス權能ヲ有ス
船長死亡シ、船舶ヲ指揮スル資格ヲ失ヒ又ハ辭職セルトキハ運轉士 (運轉士二人以上アル場合ハ上席者) 新船長ノ任命迄其ノ代理ヲ爲スモノトス

第四十七條 機關室ノ業務ヲ指揮シ船舶ノ機關機械裝置及之ニ關聯スル器具、石炭庫、水槽及之ニ關聯スル通路機關室及汽罐室ニ屬スル限リノ船体ノ運轉、注意及維持ニ付責任ヲ負フコト、機關ノ爲ノ石炭其ノ他ノ必需品ノ供給ヲ監督シ又是等ヲ積込ム際其ノ品質及數量ヲ調査スルコト竝機關部員ト當該部員ニ定メラレタル居室ヲ監督スルコトハ機關士ノ特別ノ任務トス

第一項ニ掲クル船舶、屬具及艙裝ノ部分ニ何等ノ事故發生シ又ハ缺陷カ發見サルルトキハ機關士ハ遲滯ナク之ヲ船長ニ報告スヘシ
海法ノ規定ハ機關室ノ航海日誌ノ保管ニ關スル機關士ノ責任ニ關シ適用セラル

第四十八條 船舶ニ二人以上ノ機關士アルトキハ首席機關士ハ一切ノ機關室ノ業務ヲ行フ責任ヲ有シ機關

士ニ其ノ仕事ヲ割當ツヘシ

首席機關士不在ナルカ又ハ勤務シ得サルトキハ船内ニ在ル其ノ他ノ機關士中ノ上席者ハ首席機關士カ未タ指揮セサル事項ニシテ遲滯ヲ許ササルモノニ關スル命令ヲ爲ス權能ヲ有ス

勤務中ニ於ケル一般的義務

第四十九條 船長及一切ノ其ノ他ノ職員ハ其ノ下僚ヲ同情深ク且合理的ニ遇スヘキモノトス体刑ハ何人ニ對シテモ課スヘカラス
各員ハ適正、勤直、溫和ニ身ヲ處シ上長ニハ禮儀ヲ以テ應待シ船内ニ於ケル命令及規律ノ維持ノ爲ノ一切ノ規則ヲ忠實ニ守ルヘキモノトス下僚カ命令ヲ受クルトキハ明瞭且適切ナル應答ヲ以テ其ノ命令ヲ理解セル旨ヲ表示スヘシ

第五十條 自己ノ任務ニ關シ上長ノ命令ニ服從シ船舶及貨物ニ注意シ又一切ノ他ノ點ニ於テ注意深ク且熱心ニ自己ノ任務ヲ果スコトハ各海員ノ義務タルヘキモノトス
職務ノ實行ニ際シ海員ノ過失又ハ懈怠ニ因リ損害ヲ惹起シタルトキハ其ノ損害ニ對シ賠償ヲ支拂フヘシ但シ裁判所ハ證據ニ基キ過失若ハ懈怠ノ輕重、損害ノ程度又ハ其ノ他ノ事情ヲ適當ニ考慮シテ當該賠償ヲ相當ノ程度迄減額スル權能ヲ有ス

職務ニ就クコト、之ヲ離ルルコト及船内ニ貨物ヲ搬入スルコト

第五十一條 海員ハ明示セラレタルトキニ於テ船舶ニ於ケル勤務ニ就クヘキモノトス海員ハ其ノ後許可ナクシテ船舶ヲ去ルヘカラス

船舶カ港其ノ他ノ安全ナル碇泊所ニ在ルトキハ海員ハ自由時間中上陸スヘキ許可ヲ拒否セラルルコトナシ但シ船舶ニ於テ貨物又ハ乗船者ノ安全ノ確保上必要ナル任務ノ實行又ハ切迫セル出航若ハ曳船ヲ爲ス爲在船ヲ要求セラレサル場合タルコトヲ要ス海員ハ若可能ナルトキハ上陸スル爲ニ無料ニテ船舶ノ短艇ヲ使用スル權利ヲ有ス

海員カ成規ノ時間ニ乗船スルコト能ハサルトキ遲滞ナク其ノ旨ヲ船長ニ報告スヘシ

第五十二條 船舶ニ雇入ラルル契約ヲ了リタル海員カ成規ノ時間ニ勤務ニ就カス、許可ナクシテ上陸シ又ハ上陸シタル後成規ノ時間ニ歸船セス且右ノ者居ラサレハ船舶乗組員ノ定員ニ不足ヲ生スルトキハ船長ハ其ノ海員ヲ船舶ニ連行スルコトヲ所轄警察官吏ニ要求スル權利ヲ有ス

第五十三條 海員カ脱船スルトキハ船長ハ適當ノ方法ヲ以テ船内ニ遺棄セラルル財産ヲ賣却スル權利ヲ有ス

賣却ノ際ノ賣上高及手許ニ在ル給料カ船舶所有者ノ賠償請求ヲ支拂フニ足ルモノナルトキハ其ノ海員ハ脱船後一箇年以内ニ於テ其ノ殘額ヲ要求スル權利ヲ有ス若前記ノ期間内ニ右ノ要求ヲ爲ササルトキハ船舶所有者ニハ其ノ金錢ヲ商務院ニ送付シ其ノ處分ニ付テハ第六十九條ニ定ムル方法ヲ適用ス

第五十四條 海員ハ私用ノ爲必需品ヲ適度ノ量ニ於テ持參スルコトヲ得但シ之カ爲船舶及貨物カ危険トナリ又ハ亂雜トナルコトナキヲ要ス海員ハ船長ノ許可ナクシテ自己若ハ他人ノ爲商業上ノ目的ノ爲ノ貨物ヲ船内ニ持込ムヘカラス

海員ハ違法ニ船内ニ持込ミタル貨物ノ運賃ヲ支拂フ義務ヲ有ス因テ損害ヲ生シタル場合ハ賠償ヲ爲スヲ要ス

貨物ヲ違法ニ船内ニ持込ミタリト信スヘキ理由アルトキハ船長ハ乗組員ノ錠前附ノ物等ヲ搜索スル權利ヲ有ス船長ハ斯クシテ發見シタル物品ヲ保管シソレ等ヲ陸上ニ送り必要ナルトキハソレヲ船舶外ニ拋棄スルコトヲ得

船内労働、食糧及衛生條件

第五十五條 船内労働ハ各員ノ等級ヲ考慮シテ之ヲ配置スヘシ

労働ヲ指揮スル者ハ現行規則ニ準據シテ事故及健康ニ及ホス危険ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ執ル様注意スル義務ヲ有ス

第五十六條 船内労働時間ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

前述ノ特別法カ適用セラレサル船舶ニ於テハ日曜日又ハ常例ノ國民的祝日ニ於テ其ノ乗組員ニ急迫セサル何等ノ仕事ヲ課スヘカラス

乗組員ニハ可能ナル限り其ノ欲スル所ニ從ヒ日曜日及祝日ニ於ケル祈禱式及禮拜式ニ出席スル便宜ヲ與フヘシ
第五十七條 船長ハ乗組員ニ國王ニ依リ發布セラレタル規則ニ依リ良質且十分ナル食物ヲ給與スル様注意スヘシ

船長航海中食物ノ供給ヲ減スル必要アリト認ムルトキハ乗組員ハ之ニ對シ正當ナル賠償ヲ受クル權利ヲ有ス
船長ハ氣候及健康ヲ適當ニ考慮シテ飲食ヲ適宜ニ變更スル權利ヲ有ス但シ乗組員ノ權利ハ之カ爲ニ侵害セラレサルコトヲ要ス

食料ヲ減少シタルトキハ船長ハ乗組員カ量目ヲ照査スル權利ヲ拒否スヘカラス
船長ハ乗組員ノ食物給與ニ關シ契約ヲ爲スヘカラス

第五十八條 船長ハ船内ノ衛生條件、居室及掃除ヲ監督シ是等ノ事項ニ關スル規則カ嚴格ニ遵守セラルル様注意スヘシ

船舶検査要求權

第五十九條 半數以上ノ乗組員カ船長ニ對シ第三十八條ニ掲クル條件ヲ取調フル爲ニ検査ヲ要求スルトキ又ハ首席機關士カ其ノ監督ノ下ニアル船舶屬具及艤裝ノ部分ニ關シテ斯ル請求ヲ爲ストキハ船長ハ王國

内ニ在ルトキハ所轄検査官廳、外國ニ在ルトキハ瑞典領事ノ検査ヲ受クル爲其ノ手配ヲ爲ス義務ヲ有ス
當該地方ニ瑞典領事ノ在ラサルトキハ船長ハ最寄ノ瑞典領事ニ検査執行ヲ要求シ又ハ検査ノ執行ヲ検査官ニ命スヘキコトヲ當該地ノ所轄官廳ニ要求スヘシ

前項ノ検査ノ要求アルモ積荷カ開始セラレタル後ナルトキ又ハ検査ヲ爲ス爲貨物ヲ取去ルヲ要スルトキハ船長ハ其ノ要求ヲ容ルルヲ要セス但シ運轉士或ハ機關士カ右ノ要求ニ參加シ又ハ首席機關士カ其ノ權限内ニアル事項ニ關シ要求セルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

要求ニ依ル検査ノ結果不服ヲ申立ツヘキ正當ナル理由存セサルコトカ判明セルトキハ検査ヲ請求セル者ハ検査ニ要シタル費用及損害ノ賠償ヲ爲スヲ要ス
本條ニ依ル検査カ外國ニ於テ行ハレタル場合ニシテ領事カ検査ヲ行ヘルトキハ關係領事其ノ他ノ場合ニ於テハ船長ハ之ニ關スル報告書ヲ遲滞ナク商務院ニ送付スヘシ

第六十條 船内ニ於ケル秩序及規律ノ維持ノ爲必要ナルトキハ船長又ハ其ノ不在若ハ勤務不能ノ場合ニ於テハ船長ニ代リテ指揮スル者ハ實力ヲ用ヒテ服從ヲ確保スルコトヲ得

船舶カ危險ニ陥リ又ハ暴動船内ニ起レルトキ其ノ他必要ナル場合ニハ船長ハ服從又ハ秩序ノ回復ヲ強制スルニ必要ナル手段ヲ利用スル權利ヲ有シ各乗組員ハ斯カル場合ニハ特別ナル命令ノナキ場合ト雖船長

ニ必要ナル助力ヲ爲ス義務ヲ負フ
命令ニ服従スルコトヲ拒メル者カ傷害ヲ受ケタルトキハ之ニ關シ責任ヲ負フヘキ者ハ無罪タルヘキ
モノトス但シ必要ナル程度ヲ超ユル實力ヲ用ヒサルヲ要ス

第六十一條 海員カ船舶瑞典ノ港ニ在ラサルトキニ於テ禁錮以上ノ重刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯ストキハ船
長ハ其ノ犯罪カ問題ノ起リシ地ノ當局者ニ依リ處理セラルル場合ニ非サレハ遲滯ナク第六十四條ノ規定
ニ依リ違法行爲者ニ關スル訊問ヲ爲スヲ要ス
船長ハ違法行爲者船舶ヲ脱セサル様注意シ此ノ目的ノ爲ニ必要ナルトキハ之カ瑞典領事又ハ王國內ノ警
察官吏ニ引渡ス迄船内ニ監禁スル權利ヲ有ス但シ船長ハ其ノ違反行爲者カ必要以上ニ虐待セラレサルコ
トニ責任ヲ負フヲ要ス

第四章 懲戒

第六十二條 船長ハ次ノ場合ニ於テ一日以上七日間以下給料ノ支拂ヲ停止シ海員ヲ懲戒スル權利ヲ有ス

- 一 海員カ成規ノ時間ニ勤務ニ就カス、許可ナクシテ上陸シ又ハ上陸セル後成規ノ時間ニ歸船セサルト
キ
- 二 海員成規ノ時間ニ歸船スル能ハサル事情ヲ通知スルコトヲ怠リシトキ
- 三 海員勤務中懈怠ニヨリ損害又ハ危險ヲ惹起シタルトキ

- 四 海員カ服務中酩酊セルトキ
- 五 海員カ貯藏品ヲ濫費シ又ハ他ノ方法ヲ以テ不當ニ處分シタルトキ
- 六 海員其ノ船舶ニ屬セサル者ヲ船内ニ隱匿スルコトニ加擔シ又ハ規定ニ反シテ他人ヲ船舶ニ連レ來レ
ルトキ

- 七 海員違法ニ船内ニ酒類又ハ混亂若ハ危險ヲ惹起スルコトアルヘキ其ノ他ノ物ヲ持込ミ又ハ違法ニ其
ノ財産ヲ船舶ヨリ取去レルトキ
- 八 海員上長ニ對シ不當ナル行動ヲ爲シ又ハ其ノ任務ニ關シ上長ノ命令ニ從ハサルトキ
- 九 海員船内其ノ他ノ從業場所ニ於テ喧嘩其ノ他ノ混亂ヲ惹起シ又ハ命令及規律ニ反スル其ノ他ノ行動
アリタルトキ

然レトモ前項ノ懲戒ハ自國ノ海又ハ海峡 (Sound) ニ於ケル航海ニ從事セル船内ニ於テハ之ヲ課スヘキ
モノニアラス

第六十三條 刑罰ハ特ニ反對理由アル場合ヲ除キ違法行爲アリタル後十二時間以前又ハ七日以後ニ於テハ
課スヘカラス

第六十四條 懲戒ヲ課スル前違法行爲及事情ノ詳細ヲ審査スル爲訊問ヲ爲スヘシ訊問ハ最モ經驗アル者ノ
中ヨリ船長ノ選ヒタル二人ノ仲裁人ノ出席ヲ得テ船長之ヲ行フ可能ナルトキハ仲裁人ノ一人ハ運轉士又

ハ機關士他ハ普通海員タルヘシ但シ訊問セラルル行爲ヲ爲シタル者カ運轉士又ハ機關士ナルトキハ二人ノ仲裁人ハ成ルヘク職員タルヲ要ス
 當該事件ニ付報告ヲ爲シ得ヘシト認メラルル海員其ノ他ノ者アルトキハ之ヲ訊問スヘシ海員及仲裁人ハ其ノ事件ノ解明ニ役立チ得ル事項ニ關シテ訊問セラルヘキコトヲ要求スルコトヲ得宜言竝船長ノ決定ハ航海日誌ニ記入シ海員及仲裁人ニ讀聞カスヘシ記入ハ船長及仲裁人ノ調印ニヨリ其ノ正確ナルコトヲ證明スヘシ又仲裁人ハ調査ノ結果生シタル意見ヲ附加スルコトヲ得
 船長訊問ノ際ノ手續ニ關スル前掲ノ規定ヲ遵守セサルトキハ懲戒ニ關スル決定ハ無効トス
 海員次ニ掲クル規定ニ依リ船長ノ決定ニ對シ控告セントスルトキハ訊問ニ關スル記録及決定ノ寫ヲ要求スルコトヲ得

第六十五條 懲戒ハ違法行爲ノ惡性ノ輕重、四圍ノ事情及違法行爲者ノ素行爲ニ依リ斟酌スヘキモノトス行爲カ輕微ニシテ單ナル警告ヲ以テ足ルト信スヘキ理由アルトキハ懲戒ニ付スヘカラス
 船長ハ懲戒ヲ課スル決定ニ際シ特ニ留保スル場合ヲ除キ既ニ懲戒ヲ課シタル行爲ニ關シ訴訟ヲ提起シ又ハ訴訟ノ提起ヲ要求スルコトヲ得ス

第六十六條 船長ハ海員ノ退職前必要ナル場合ハ懲戒ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得
 懲戒免除ニ關スル決定ハ之ヲ航海日誌ニ記入シ船長及二人ノ證人之ニ調印スヘシ若調印ナキ場合ハ其ノ

決定ハ無効トス

第六十七條 海員カ懲戒ニ付シタル船長ノ決定ニ不服ナルトキハ當該乗組員カ雇止メラルルトキ又ハ雇止前其ノ航海中船舶カ少クトモ二日間碇泊スト豫期セラルル最初ノ港ニ於ケル登記官吏ニ對シテ該決定ノ再審査ヲ要求スル權利ヲ有ス登記官吏ハ右懲戒カ適法妥當ナリト認ムヘキモノナルヤ否ヲ取調ヘ之ニ關スル決定ヲ下スヘシ
 右決定ハ航海日誌ニ記入セラルヘク海員ノ要求アルトキハ其ノ寫ヲ交付スヘシ
 本條ノ規定ニ依ル船長ノ決定ノ審査ナキ場合ハ海員ハ雇止後一年以内或ハ雇止ノ起ラサルトキハ退職後一年以内ニ瑞典ノ裁判所ニ控訴スル權利ヲ有ス

第六十八條 第六十七條第一項ニ掲クル場合ニ於テ船長又ハ海員カ登記官吏ノ決定ニ不服ナルトキハ都市裁判所長ニ當該決定ノ取調ヲ要求スルコトヲ得但シ其ノ決定カ斯卡ル裁判所ノ存在スル都市ニ於テ下サレタル場合ナルヲ要ス登記官吏ノ決定カ外國又ハ王國內ノ都市裁判所ノ存在セサル場所ニ於テ下サレタルトキハ右要求ハ且其ノ船舶カ少クトモ二日間碇泊スヘシト豫期セラルル最初ノ港ニシテ都市裁判所ノ存在スル地ニ到着シタルトキハ其ノ都市裁判所長ニ提出スヘキモノトス當該要求ハ出來得ル限り速ニ且船舶ノ出航前適當ノトキニ之ヲ爲スヘシ其ノ取調ハ都市裁判所長又ハ裁判所カ此ノ目的ノ爲ニ任命スル裁判所ノ其ノ他ノ判事之ヲ行フ

本條ニ定ムル取調ノ要求アルトキハ裁判官ハ遲滯ナク船長、海員其ノ他本件ニ關シ報告ヲ爲スコトヲ得ヘシト認メラルル者ヲ召喚シ船長ハ亦航海日誌ヲ持參スルコトヲ要シ當該地方ニ登記官吏存スルトキハ登記官吏ヲモ亦召喚スルコトヲ得召喚ニ應セサル者ニハ罰金ヲ科シ召喚ニ應スル様命スルコトヲ得若此ノ命令ニモ服セサルトキハ更ニ刑罰ヲ科ス裁判官原告其ノ他必要ト認ムル者ニ質問セルトキハ遲滯ナク本件ニ關スル判決ヲ下スヘシ此ノ判決ニ對スル上訴ハ之ヲ許サス
裁判官當該地方ヨリ船舶去リタルカ爲事件ヲ解決シ得スト認メタルトキハ其ノ事件ニ付テソレ以上ノ考慮ヲ省略スルコトヲ得

本條ニ定ムル方法ニ於ケル登記官吏ノ判決ノ取調ナキ場合ハ決定ニ對シ瑞典裁判所ニ上訴ヲ爲ス船長及海員ノ權利ニ關シテハ第六十七條第二項ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

第六十九條 懲戒ノ結果沒收セラレタル海員ノ給料ハ乘組員カ雇止メラルルトキ船長之ヲ登記官吏ニ手渡し其ノ受領證ハ之ヲ航海日誌ニ記入セシメ又ハ航海日誌ト共ニ保管スヘシ乘組員カ雇止メラレサルトキハ右金錢ハ海員カ退職セシ後船舶カ寄航セル最初ノ瑞典ノ港ニ於ケル海員署長ニ手渡スヘク之ト共ニ懲戒ニ關スル決定ノ寫及第六十四條ニ依ル訊問ニ關聯スル記録ノ寫モ亦手渡スヘシ金錢及寫ハ商務院ニ移送セラレヘシ

本條ニ掲クル給料ハ國王ニ依リ發布セラタレル規則ニ從ヒ海員及其ノ依存者ノ救助ニ充ツ

第五章 本來ノ意味ノ所謂乘組員ニ屬セサル乗船者

第七十條 海員ニ關スル本法ノ規定ハ之ヲ船舶所有者又ハ船長ニヨリ雇入ラレタルモ本來ノ意味ノ所謂乘組員ニ屬セサル船内ノ使役者ニ準用ス

第七十一條 第十條、第二十六條、第二十七條、第二十八條(第三項)、第二十九條、第三十一條、第四十條、第五十條、第五十四條、第五十七條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ船舶所有者又ハ船長ニ依リ雇入ラレサル船内使役者ニ關シ之ヲ準用ス

是等ノ者ハ船長カ船舶ノ安全ヲ確保スル必要上割當テタル仕事ヲ全力ヲ以テ遂行スル義務アルモノトス
第七十二條 第七十一條第一項ノ規定ハ海法ノ規定ニ從ヒ領事ノ指令ニ基キ本國ニ送還セララルル海員ニ準用ス

前項ノ海員ハ要求アルトキハ相當ナル報酬ヲ受ケテ全力ヲ以テ船内勞働ニ從事スヘシ此ノ際其ノ海員ノ從前ノ職務トノ關係ニ付テハ相當ノ考慮ヲ拂フヘシ

第六章 刑罰ヲ科セラルヘキ責任ニ關スル規定

第七十三條 船長又ハ其ノ代理人ハ左ノ場合ニ於テハ罰金ニ處セラル

- 一 船内ニ於テ十四歳未満ノ幼年ヲ使用シ又ハ焚火ノ爲十六歳未満ノ少年ヲ使用スルトキ

二 被雇者ニ給料手帖ノ交付ヲ拒ムトキ
 三 傷病者ニ關シ又ハ船内ニ在ル者ニ感染ノ危険ヲ防止スルコトニ關シ本法ニ基キ課セラレタル責任ヲ回避セルトキ

四 乗組員ヲ解雇スル以前訊問ヲ爲スコトニ關スル本法ノ規定ヲ守ラサルトキ

五 第四十三條ニ掲クル登記官吏又ハ領事ノ決定ニ從ハサルトキ

六 適法ナル理由ナクシテ或ル者ニ其ノ自由ナル時間ニ上陸スル許可ヲ與ヘルヲ拒メルトキ

七 食物ノ供給ニ關シ本法ノ規定ニ違反セルトキ

八 第五十九條末項ニ掲クル報告ニ關シ其ノ要求ニ應セサルトキ

第一號、第五號及第七號ニ掲クル違法行爲カ船舶所有者ノ了解又ハ同意ヲ得テ行ハルルトキハ船舶所有者ニ對シ船長ト同一ノ刑罰ヲ科ス

第一號ニ掲クル場合ニ於テ幼年又ハ少年ノ使役カ其ノ父又ハ後見人ノ了解又ハ同意ヲ得テ爲サルルトキハ當該父又ハ後見人モ亦五十「クローネ」以下ノ罰金ニ處セラル

第七十四條 船長又ハ其ノ代理者カ強制權、船内ノ被雇者ヲ監禁スル權利若ハ本法ノ下ニ認許セラレタル懲戒權ヲ濫用スルトキ又ハ船内ノ被雇者ヲ不當ニ虐待スルトキハ其ノ違法行爲カ一般法ニ依リ重罪ノ刑ニ處セラレサル限り罰金又ハ六箇月以下ノ禁錮ニ處セラル

特ニ重大ナル事情存スルトキハ船長ニ對シ一定期間又ハ永久船舶指揮權ノ行使ニ對シ特別ノ條件ヲ設クルヲ要スル場合船舶ノ指揮權ノ剝奪ヲ宣告スルコトアルヘシ裁判所ハ遲滯ナク斯カル刑罰ニ付商務院ニ告知スヘシ

第七十五條 勤務ヲ回避セントスル意思ヲ以テ海員カ成規ノ時間ニ船内ノ勤務ニ就カス又ハ同一ノ目的ノ爲ニ違法ニ船舶ヲ去ル場合ニシテ船舶又ハ人命ニ危険ヲ及ホス虞アルトキ其ノ他特ニ大ナル事情アルトキ脱船シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ罰金ニ處セララル

船舶ニ雇入レラレタル海員其ノ他ノ事情ニ依リ脱船スルトキハ之ヲ罰金ニ處ス

第七十六條 言語又ハ行爲ヲ以テ海員ニ脱船ヲ教唆シ又ハ脱船ニ助力シタル者ハ罰金又ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十七條 船ニ在ル被雇者船長又ハ船長ニ代リテ命令ヲ發スル者ニ反抗シ服從ヲ拒ムトキハ罰金ニ處シ特ニ大ナル事情アル場合ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

船長其ノ他ノ上官ヲ毆打シ、職務ニ關シ或ル行動ヲ爲サシメ若ハ爲ササラシムル爲暴力ヲ以テ脅シ又ハ斯カル行動ニ付復讐ヲ爲シタル者ハ禁錮ニ處シ特ニ重大ナル事情アルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス特ニ斟酌スヘキ事情ノ存在スルトキハ罰金ニ處スルコトアルヘシ

第七十八條 暴動船内ニ起レルトキハ其ノ教唆者又ハ指導者ハ禁錮又ハ二年以下ノ懲役ニ處シ之ニ參加セ

ル其ノ他ノ者ハ六箇月以下ノ禁錮特ニ斟酌スヘキ事情ノ存スルトキハ罰金ニ處ス暴動中人又ハ財産ニ對シ暴力ヲ加ヘタルトキハ教唆者又ハ指導者ハ六年以下ノ懲役之ニ參加セル其ノ他ノ者ハ二年以下ノ懲役ニ處セラル

刑法第四章第一條ノ規定ハ暴力又ハ暴動ニ關シ犯サレタル其ノ他ノ犯罪ニ關スル犯罪人ニ刑罰ヲ科スル場合ニ之ヲ適用ス

第七十九條 船内ノ被雇者勤務中不注意又ハ懈怠ニ依リ海上ニ於テ事故ヲ惹起セルトキハ其ノ犯罪人カ一般法ニ基キ重罪ノ刑ニ處セラレサル限り罰金又ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

違法行爲者カ運轉士又ハ機關士ニシテ特ニ刑ヲ加重スヘキ事情存スルトキハ當該權利ノ行使ニ對シ特別ノ條件カ設クヘキ場合ハ一定ノ期間又ハ永久ニ斯カル地位ヲ保持スル權利ヲ失フヘキコトヲ宣言セラルルコトアルヘシ裁判所ハ遲滞ナク斯カル刑罰ニ付商務院ニ報告スヘシ

第八十條 船内ノ被雇者船長ノ許可ナクシテ船舶又ハ荷物ヲ危險ニ曝ス貨物ヲ運ヒ來ルトキハ罰金又ハ六箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第八十一條 充分ナル認識ナクシテ第五十九條ニ掲クル検査ヲ爲サシムル者ハ罰金又ハ一年以内ノ禁錮ニ處ス

第八十二條 船内ノ被雇者右ニ掲クル以外ノ方法ヲ以テ勤務中犯罪ヲ犯シ又ハ命令若ハ規律ニ違反スルト

キハ罰金ニ處ス

第八十三條 第七十五條乃至第八十二條ニ掲クル違反ヲ犯セル者カ其ノ行爲ニ付第六十二條ニ從ヒ刑罰ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ其ノ犯罪ニ對スル刑罰ニ關シテハ事情ヲ斟酌シテ判決スヘキモノトシ又斯カル場合ニハ刑罰ハ他ノ場合ニ於ケルヨリモ輕減シ又ハ事情ニヨリテハ全然免除スルコトヲ得

第八十四條 第七十三條第六號、第七十五條、第七十六條、第七十七條(第二項)、第八十一條又ハ第八十二條ニ定ムル犯罪ニ關シテハ原告カ其ノ犯罪ヲ告訴スルニ非サル限り檢事之ヲ起訴スルコトナシ其ノ犯罪カ一般法ニ基キ刑罰ニ處セラルルトキハ斯カル法律ノ規定ハ訴訟提起手續ニ關シテモ適用ス

第八十五條 一般法ノ規定ハ反對規定カ存セサル限り本法ニ基キ科セラルル刑罰ニモ適用ス

第七章 裁判所及訴訟手續

第八十六條 本法ニ基キ裁判所ノ解決スヘキ爭議ハ被告ノ住所ヲ有スル又ハ船舶ノ碇泊スル都市ニ於ケル都市裁判所ニ委託セラルヘキモノトス被告ノ住所カ都市裁判所ノ存在スル都市ニ在ラサルトキ又ハ其ノ船舶カ都市裁判所ノ存在セサル地ニ碇泊スルトキハ其ノ爭議ハ兩者中ノ何レカノ場所ニ最モ近キ都市裁判所ニ委託セラル

其ノ船舶カ二人以上ノ所有者ヲ有スルトキハ其ノ登記港ヲ所有者ノ住所地ト看做ス

第八十七條 當事者カ其ノ爭議ヲ第八十六條ニ基キ管轄裁判所以外ノ特定ノ都市裁判所ニ委託スルコトヲ

協定セルトキハ當該裁判所ニ委託スルコトヲ得

第八十八條 船長ノ行動又ハ懈怠ニ關シ船長及所有者ニ對シ訴訟ヲ提起セントスルトキハ船長又ハ所有者ノ一方カ出頭スル責任アル所ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第八十九條 本法ニ依リ裁判所ノ取扱フヘキ犯罪ハ其ノ犯罪カ都市裁判所ノ存在スル都市ニ於テ行ハレタルトキハ當該都市ノ都市裁判所之ヲ取扱フ然レトモ其ノ犯罪カ都市裁判所ノ存在セサル場所ニ於テ行ハレタルトキハ最寄ノ都市裁判所之ヲ取扱フ犯罪カ航海中ニ行ハレタルトキハ其ノ事件ハ船内ノ犯罪者カ最初ニ到着スル又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ最初ニ遭遇スル都市ニ於ケル都市裁判所ニ委託ス當該地カ都市裁判所ノ管轄内ニ在ラサルトキハ事件ハ最寄ノ都市裁判所ニ委託セラレ

第九十條 船長ハ本法ノ寫ヲ船内ノ近ツキ易キ場所ニ掲クル様注意スヘシ船長此ノ事項ニ關シ其ノ任務ヲ果ササルトキハ一〇〇「クローネ」以下ノ罰金ヲ科ス

本法ハ一九二三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
他ノ法令中本法ノ規定ヲ置キ換フヘキ規定ニハ本法ノ規定ヲ適用ス

諾威船員法

(千九百二十三年二月十六日)

第一章 船長ノ契約

第一條 船舶所有者ハ船長ノ雇傭契約期間ニ關シ船長トノ間ニ契約書ヲ作成スルコトヲ要ス

第二條 船長雇傭契約期間ニ關スル契約中反對規定ナキ限り當事者ノ一方ハ三ヶ月ノ豫告ヲ以テ船舶ノ積荷又ハ揚荷ノ爲寄港スル諾威港ニ於テ契約ヲ終了セシムルコトヲ得但シ船長カ一ケ年半以上引續キ船舶ニ雇傭サレタル場合該船長ハ三ヶ月ノ豫告ヲ以テ揚荷又ハ積荷ノタメ寄港セル外國港ニ於テ契約ヲ解除スルコトヲ得

第三條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得

若契約期間滿了前ニ解雇サレタル場合ハ第四條又ハ第五條ニ定メラレタル理由ニ依ル場合ヲ除キ退職後三ヶ月分ノ給料及雇傭終了ニ關シ契約書中ニ定メラレタル港迄又諾威港ニ於テ退職スルニ關シ第二條ノ規定カ適用セラルトキハ諾威港迄衣食附無賃送還ヲ受クル權利ヲ有ス

第四條 船長疾病又ハ傷痍ノ爲船舶ノ指揮不可能ナリトノ理由ヲ以テ解雇サレタル場合ハ船長ハ其ノ退職後三ヶ月分ノ給料ヲ受取ル權利ヲ有ス
但シ船長自己ノ過失ニ因リ疾病若ハ傷痍ヲ受ケタル場合又ハ契約ニ際シ疾病若ハ傷痍ヲ隱蔽セル場合ハ

執職セル期間ノミノ給料額ヲ受ク

第五條 若船長ノ職務遂行ニ當リ無能力、不誠實又ハ重大ナル過失若ハ怠慢ノ爲解雇セラレタル場合ハ其ノ服務期間以上ノ給料ヲ請求スルコトヲ得ス

第六條 船舶海上ニ於テ事故ノ爲喪失セル場合又ハ海上ニ於ケル事故ノ後修繕不可能ナリト宣言セラレタル場合ハ契約中反對規定ナキ限り雇傭契約終了ス船長ハ給料及扶持ヲ受ケ船體及貨物ノ殘務整理ノ爲居殘ルコトヲ要ス

船長ハ第四十一條ノ規定ニ從ヒ喪失所持品ニ對スル損害賠償及給料支拂及本國迄ノ無賃送還ヲ請求スル權利ヲ有ス

第七條 乗組員ニ關スル第廿四條、第廿八條及第卅條ノ規定ハ死亡ノ場合ニ於ケル給料、埋葬費、治療費及疾病ノ場合ニ於ケル送還費ニ關シ之ヲ適用ス

第八條 船長カ船舶ニ依リ得タル運賃又ハ航海中得タル其ノ他ノ收入又ハ手数料ノ分配(船長謝金)ヲ契約セルトキ而シテ航海終了前又ハ會計年度終了前ニ船長ノ解職アリタルトキ船長ハ前述割當報酬ノ比例分配部分ヲ請求スル權利ヲ有ス滯船料ハ運賃ト同様ニ取り扱フ

船長カ第三條、第四條又ハ第六條ノ規定ニ依リ服務期間ヲ超過スル給料ヲ受クル場合又ハ船長ノ給料カ第七條(第廿四條參照)ニ依リ計算サルヘキ場合ハ第一項ニ示サレタル報酬ハ一等運轉士給料ノ二倍ト船

長給料トノ差額ニ等シキ額ニ定ムルコトヲ要ス

第二章 海員ノ契約

第一節 雇 入

第九條 船長ハ船長ノ權限ニヨリ運轉士、機關士、其ノ他ノ海員雇入ノ權限ヲ有ス機關部員雇入ニ際シテハ機關長ト協議スルヲ要ス

第十條 十五歳未満ノ小兒ハ之ヲ船内ニ使用スルヲ得ス
十八歳未満ノ少年ハ之ヲ火夫又ハ石炭夫トシテ使用スルヲ得ス十六歳未満ノ者ハ機關部見習員トシテ使用スルコトヲ得ス

第十一條 海員カ海員證明證ヲ要スル航海ニ雇入レラルル場合ハ該證明證ハ之ヲ船長ニ提示スルヲ要ス
登録カ適用サレタル場合船長ハ給料契約書ヲ作製シ各海員ニ會計手帖ヲ發行スルコトヲ要ス
給料契約書ハ政府所定ノ規則ニ從ヒ二通作成スルコトヲ要シ當事者双方之ニ署名シ左記事項ヲ記載スルヲ要ス

一 海員ノ姓名、年齢、生年月日、出生地及居住地

二 契約職名

- 三 航路定限、雇入期間、雇止場所及同意サレタル雇止豫告期間
 - 四 同意サレタル給料額及給料カ航海ニヨリ定メラレタル場合ノ該航海ノ見積日數
 - 五 法律ニ依リ規定セラレサル場合ノ同意セラレタル時間外勞働報酬
 - 六 其ノ他ノ雇入契約事項全部
- 會計手帖ハ給料契約書寫一通及充分權限アル省カ規定シ海員ニ特殊ノ利害關係アル法律及規則ノ拔萃ヲ記載セルモノタルヲ要シ海員ノ雇入及雇止、契約解除ニ對スル豫告ノ付與及該契約解除ノ日ニ關スル記入ヲナスコトヲ要ス尙給料ノ支拂ニ際シ契約中ニ特記セラレタル通貨以外ノ通貨ヲ支拂フ場合ハ換算率ヲ記入スルコトヲ要ス
- 給料契約ヲ團體契約ヲ以テ締結シタル場合ハ船長ハ該契約書ノ寫ヲ船内適當ノ個所ニ備ヘ海員ノ便覽ニ供スルニ留意スルコトヲ要ス

第二節 契約有効期間

- 第十二條 海員カ特定期間又ハ特定日ニ契約解除ノ豫告ヲ爲ス條件ニテ雇傭セラレタル場合該期間カ航海中ニ滿了スルトキハ該契約ハ積荷又ハ揚荷ノ爲船舶カ港ニ立寄ル迄有效トス
- 第十三條 雇傭期間ニ關シ何等反對規定ナキ場合當事者ノ一方ハ船舶カ積荷又ハ揚荷ノ爲寄港スル各港ニ於テ契約解除ノ豫告ヲ發スルコトヲ得但シ海員カ諾威人ニシテ且諾威國內ニテ雇入レラレタル場合ハ當

- 事者ハ積荷又ハ揚荷ノ爲寄港スル諾威港以外ノ地ニ於テ契約解除ノ豫告ヲ爲スコトヲ得ス
- 豫告期間ハ運轉士及機關士ニ在リテハ一ヶ月其ノ他ノ海員ニ在リテハ一週間トス
- 第十四條 海員カ一定ノ期間又ハ一定ノ航海ニ對シ雇入レラレタルトキ該雇傭期間又ハ航海終了後新契約ノ締結ヲ爲サス引續キ同一雇傭ヲ繼續スル場合ハ當事者ノ一方ハ船舶カ積荷又ハ揚荷ノ爲寄港スル何レノ港ニ於テモ雇傭解除ニ關シ第二章第十三條ニ規定セラルル豫告ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 海員カ雇入以後一ヶ年半年以上乗船セル場合ハ雇傭期間ニ關スル契約又ハ諾威港ニ於ケル契約解除ニ關スル第十三條ノ規定ニ拘ラス積荷又ハ揚荷ノ爲寄港セル何レノ港ニ於テモ其ノ契約解除ニ關スル第二章第十三條ニ規定スル豫告ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 海員契約ニ依リ又ハ本章ノ規定ニ依リ雇止ヲ受クヘキ權利アル者其ノ船舶カ港ニ到着セルトキ作業ノ性質上其ノ作業ヲ中止スルコト能ハサル場合ハ到着後二日ヲ超エサル範圍内ニ於テ作業ヲ繼續スルコトヲ要ス

- 宣言ヲ要スヘキ場合ハ給料及衣食ノ給與ヲ受ケ該宣言ノ下サルル迄其ノ場所ニ留ルコトヲ要ス
- 第十七條 海員カ外國ノ港ニ於テ雇止メラルヘキ場合ニ於テ該外國港ノ法律又ハ官憲カ其ノ入國ヲ拒絕シ又ハ入國ニ對シ何等ノ保證ヲ要求シ其ノ保證ヲ提供スルコト能ハサル場合ハ該海員ハ船舶カ雇止メ得ル港ニ到着スル迄該船舶ニ服務スルコトヲ要ス

第三節 給料

第十八條 給料ハ海員カ船内ニ於テ服務開始ノ當日ヨリ之ヲ支拂フコトヲ要ス海員カ契約地ヨリ乗船地迄旅行ヲ要スル場合該給料ハ旅行開始當日ヨリ支拂フコトヲ要ス但シ契約ニ際シ反對規定ヲ爲セル場合ヲ除ク

給料ハ雇傭終了當日迄之ヲ支拂フコトヲ要シ海員カ雇止メラレタル場合ハ雇止當日迄トス
海員カ許可ナクシテ就業セサリシ期間ノ給料ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

給料日割計算ノ場合一ヶ月ノ日數ハ三十日トス

第十九條 海員ハ船舶ノ港碇泊中且一週一度ニ限り其ノ給料ヲ請求スルコトヲ得

給料ハ海員カ船舶所有者ニ對シ爲替手形ニ依ル支拂ヲ要求セサル限り凡テ現金ニテ之カ支拂ヲ爲スコトヲ要ス給料ハ當時ノ換算率ニ依リ地方通貨ニ依リ支拂ヲ請求スルコトヲ得

諾威海員ハ權限アル省ノ指定シタル領事ヲ通シ無手数料ニテ給料ヲ諾威ニ送付スルコトヲ得政府ハ其ノ種送金ニ對シテ責任ヲ負フ

第二十條 海員ハ其ノ給料ヲ月々家族渡ノ形式ニテ諾威ニ於ケル特定受取人ニ送金シ又ハ諾威ノ銀行ニ預金スルコトヲ得

給料家族渡ハ雇傭終了前海員ノ同意ヲ得スシテ減額又ハ差押フルコトヲ得ス但シ給料ノ殘額カ紀律違反

行爲ニ依ル罰金又ハ執務中生シタル損害賠償額支拂ニ不足セルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 船長ハ海員カ取得シ得ル給料ノ三分ノ一ヲ該海員ノ雇止迄保留スル權利ヲ有ス保留サルヘキ額ハ給料月額ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 特定航海ニ對シ一定額ノ給料契約ヲ締結セル場合航海ノ豫定期間ニ關スル給料契約規定ハ特定期間ニ對スル給料計算ノ目的ニ之ヲ適用ス

航海カ雇人當時ノ見積期間以上ニ亘ル場合ハ海員ハ給料ニ比例シテ割増ヲ請求スル權利ヲ有ス但シ之ト反對ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス之ニ反シ航海カ雇入契約當時ニ於ケル見積期間ヨリ短縮サレタルトキハ海員ノ規定給料全額ノ請求權ニ影響スルコトナシ

第二十三條 船舶カ乗組定員以下ノ員數ニテ發航セル場合又ハ有能ナル乗組員航海中減員セル場合航海中減員ニ依リ節約サレタル給料ハ殘留乗組員ニ賦課サレタル割増作業ノ量ニ應シ各自ニ分配スルコトヲ要ス但シ前述割増作業ニ關シ時間外作業手當支拂ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 諾威海員カ雇傭中ニ死亡シタル場合船舶所有者ハ該海員死亡ノ日又ハ給料取得權消滅ノ日ヨリ起算シ給料一ヶ月分ヲ該海員ノ寡婦又ハ十八歳未滿ノ遺子ニ支拂フコトヲ要ス

船舶カ減失シ該事故ノ發生日時ヲ確知スルコト能ハサル場合ハ通常船舶カ減失シタリト推定セラレル期間即チ該船舶ノ最後ノ消息アリシ地點ヨリ其ノ目的地ニ到達スルニ要スヘキ期間滿了ノ時ヲ以テ死亡シ

タルモノト推定シ該海員ノ給料ノ計算ヲス爲コトヲ要ス
斯カル場合該海員ノ寡婦又ハ十八歳未満ノ遺子ニ對シ一ヶ月分ノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス
第二十五條 給料ノ最後ノ決算ニ際シ海員ノ取得セル給料總額カ其ノ當然取得スヘキ總額ヲ超エテ前渡サ
レタル事實ヲ發見シタル場合該海員ノ雇傭契約終了カ第二十四條、第三十二條(第一項及第二項)、第三
十四條、第三十八條乃至第四十一條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ該過拂前渡金ノ拂戻ヲ爲スヲ要セス

第四節 疾病中ノ治療及埋葬

第二十六條 海員ハ船長ノ要求アリタルトキハ診療ヲ受クルコトヲ要ス但シ斯カル場合ニハ何等ノ費用ヲ
海員ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第二十七條 海員カ疾病又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船長ハ船内又ハ陸上ニ於テ衣食、治療、看護及醫療必
要物ヲ給シ必要ナル看護ヲ受ケシムルニ付留意スヘシ
海員カ船内ノ他ノ海員ニ危険ヲ及ホス如キ疾病ニ罹レリト信スヘキ理由存スルトキハ船長ハ能フ限り診
察ヲ受ケシムヘシ疾病ニ對スル適當ナル豫防法ヲ船内ニテ行フコト能ハサル場合ハ船長ハ該患者ヲ上陸
セシムルコトヲ要ス

海員自ラ其ノ所有品ヲ處理スルコト能ハサル場合ハ船長之ヲ保管スヘシ
海員疾病ノ爲外國ニ遺留セララルル場合ハ船長ハ該海員ノ保護ニ關シ其ノ地ノ領事ニ委託スルコトヲ要

ス同地ニ領事カ存セサルトキハ船長ハ他ノ適當ナル保護手段ヲ講シ最寄ノ領事ニ報告スルコトヲ要ス
第二十八條 罹病期間中ノ治療費ハ雇傭契約存續中ハ船舶所有者ノ負擔トス

海員カ雇止メラレタル當時傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹レルトキハ六週間ヲ超エサル範圍内ニ於テ船舶所有
ノ負擔ヲ以テ治療ヲ受ケシムルコトヲ要ス罹病海員カ諾威人ニシテ且海外ニテ治療中ナルトキハ十二週
間ヲ超エサル範圍内ニ於テ船舶所有者ノ負擔ヲ以テ治療ヲ受ケシムルコトヲ要ス該期間ハ雇止當日ヨリ
起算シ雇止ラレサル場合ハ該船舶ノ出帆當日ヨリ起算ス諾威人海員海外ニ遺留サレタル場合該海員ハ
諾威内居住地迄衣食附無賃送還ヲ受クル權利ヲ有ス諾威行船舶又ハ該海員ノ歸宅ニ最モ便宜ナル港ニ向
フ船舶ニ雇傭ヲ要求セラレタル場合其ノ健康狀態カ作業ニ耐エ得ラルトキハ其ノ雇傭ヲ承諾スルコトヲ
要ス但シ其ノ地位又ハ給料ハ前雇傭當時ノ地位又ハ給料ヨリ低下シ又ハ少額タルコトヲ得ス
海員カ自己ノ過失ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル場合又ハ雇入ノ際疾病若ハ傷痍ヲ隱蔽セル場合
ハ雇傭終了前及終了後ノ疾病治療費ハ其ノ海員ノ負擔トス且其ノ居住地ヘ無賃送還ヲ受クルコトヲ得ス
斯カル場合ニ於ケル船舶所有者ノ支出費用ハ該海員ノ給料中ヨリ控除スルコトヲ得
海員傳染性ノ肺結核ニ罹リタル爲解雇サレタル場合ハ第二項ニ依レハ船舶所有者ノ負擔タルヘキ疾病中
ノ治療費及送還費ハ國庫ノ負擔トス

傳染スル程度ノ花柳病ニ感染セル諾威海員海外ニテ雇止ヲ受ケタル場合ハ雇入期間終了迄ノ治療費ハ國

庫ノ負擔トス

第二十九條 海員死亡シタルトキハ船長ハ葬式ノ準備ヲ爲シ近親者ニ死亡通知ヲ爲スコトヲ要ス船長ハ死亡海員カ船内ニ殘シタル所有品ノ遺産目錄ヲ作製スルコトヲ要ス海外ニ於テ死亡セル場合ハ最寄領事ニ遺産目錄ヲ送附スルコトヲ要ス船内ニテ該遺産ヲ保管スルコトカ不便ナル場合ハ船長ハ該遺産ヲ領事ニ引渡シ若ハ有利ニ賣却スルコトヲ得

第三十條 海員雇傭中ニ死亡セル場合葬式費用ハ船舶所有者ノ負擔トス解雇後死亡セル場合ニ於テモ當時船舶所有者カ治療ノ義務アル事故又ハ傷痍ニ因リ死亡セル場合ハ前項ノ規定ヲ適用ス海員カ第四章第廿八條ニ基キ國庫費用ニテ治療中死亡セルトキハ葬式費用ハ國庫ノ負擔トス

第三十一條 船長カ諾威海員ノ疾病又ハ葬式ノ爲海外ニ於テ支出セル費用ハ該費用ニ關シ船舶所有者負擔義務ナキトキハ船長ハ國庫ニ對シ之カ賠償ノ請求權ヲ有ス

第五節 海員ノ雇止ニ關スル船長ノ權利

第三十二條 海員カ疾病又ハ傷痍ノ爲相當期間其ノ職務ヲ遂行スルコトヲ得ス若ハ船内ニ在ル他ノ者ニ危険ヲ及ホス虞アル疾病ニ罹レル場合ハ船長ハ該海員ヲ雇止ムルコトヲ得

此ノ場合海員ニハ雇止迄ノ給料全額及運轉士又ハ機關士ニ在リテハ雇止後給料二ヶ月分其ノ他ノ海員ニ在リテハ給料一ヶ月分ヲ支拂フコトヲ要ス

海員自己ノ過失ニ因リ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタル場合又ハ雇入ノ場合疾病若ハ傷痍ヲ隱蔽セル場合

ハ其ノ雇止メラレタルト否トニ拘ラス該給料支給額ハ職務ニ服シタル期間ニ限ル

第三十三條 船長ハ左記ノ場合海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一 海員カ其ノ職務ニ不適任ナリト認メラルルトキ

二 海員カ規定時刻ニ歸船セス而シテ船舶ハ(代人ナシニ)發航スルヲ要シ又ハ代人ヲ雇入ルルヲ要スルトキ

三 海員カ屢上長ノ命ニ服セス、之ニ對シ暴行ヲ加ヘ、船内ニ在ル他ノ者ヲ酷使シ又ハ執務中屢酩酊スル等著シク其ノ職務ヲ怠リタルトキ

四 海員カ竊盜其ノ他重大ナル犯罪ヲ犯シ又ハ課稅品若ハ輸出入禁止品ヲ船内ニ隱匿セルトキ

五 外國官憲ニ對シ雇傭ニ關スル爭議ヲ提起セルトキ
乗船中ノ海員ヲ本條ノ規定ニ依リ雇止ムル場合ハ出來得ル限り雇止前第六十四條ノ規定ニ依ル審査ヲ行フコトヲ要ス

海員ハ實際ニ服務セル期間以上ニ亘ル給料請求ノ權利ナシ

第三十四條 海員カ第三十二條及第三十三條ニ定ムル以外ノ理由ニ因リ雇入期間滿了前雇止メラレタルトキハ運轉士又ハ機關士ニ在リテハ退職後二ヶ月分其ノ他ノ海員ニ在リテハ一ヶ月分ノ給料ヲ請求スル權

利ヲ有ス且契約書中ニ規定セラレタル雇止港若ハ諾威港ニ於ケル雇止ニ關スル第十三條ノ規定ヲ適用スル場合ハ該諾威港迄衣食附無賃送還ヲ請求スル權利ヲ有ス

第六節 海員ノ雇止請求權

第三十五條 海員カ他ノ船舶ノ船長、運轉士、機關士又ハ現職ヨリ上級ノ地位ニ就職シ得ルコトヲ示シ又ハ雇止ヲ受クルコトカ其ノ海員ノ利益ニ關シ必要ナリト思惟セラルル事情ノ發生セルヲ明示スルトキハ其ノ海員ハ退職當日迄ノ給料支拂ヲ受ケ雇止ヲ請求スルコトヲ得但シ斯カル場合ニハ船舶所有者ニ負擔ヲ增加セシムルコトナキ範圍内ニ於テ適當有能ナル代人ヲ推舉スルコトヲ要ス

第三十六條 雇入後船舶ノ目的港ニ惡性ノ傳染病カ發生セルコト明カニナレルトキハ海員ハ該船舶ノ發航前ニ在リテハ直ニ發航後其ノ發生事實ヲ知リタルトキハ其ノ後船舶ノ寄港スル最初ノ港ニ於テ雇止ヲ請求スルコトヲ得斯カル場合ノ給料支拂ハ退職當日迄トス

前項ノ規定ハ海員雇入後船舶カ交戰國ニ依リ捕獲サルル危險ノ生セル場合又ハ戰禍ニ罹ル虞アル場合又ハ斯カル危險ノ實際増大セル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 海員カ一定ノ航路ニ雇入レラレタル場合其ノ航路カ當初ノ豫定航路ヨリ著シク變更サレタルトキハ其ノ發航前ニ在リテハ直ニ又發航後ニ在リテハ航路變更ヲ知リタル後該船舶ノ寄港スル最初ノ港ニ於テ雇止ヲ請求スルコトヲ得航路變更ノ理由ニ依リ雇止メラルル海員ハ運轉士又ハ機關士ニ在リテハ退

職後給料一ヶ月分其ノ他ノ海員ニ在リテハ給料半ヶ月分ノ支拂請求權及發航前ニ在リテハ雇入契約地迄又其ノ他ノ場合ニ在リテハ定メラレタル雇止地迄ノ衣食附無賃送還ノ請求權ヲ有ス

第三十八條 船舶カ航海ニ付耐航力ナキ場合船長カ其ノ缺點ノ修理ヲ爲ササルトキハ海員ハ其ノ雇止並第三十四條ノ規定ニ從ヒ給料ノ支拂及衣食附無賃送還ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船長カ本法第五十九條ノ規定ニ反シ該船舶ノ検査ヲ受ケシメサル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 海員カ船長ヨリ虐待ヲ受ケタル事實若ハ他ノ乗組員ヨリ虐待ヲ受ケ船長ニ其ノ保護ヲ願出タルニ拘ラス保護ヲ受クルヲ得サリシ事實ヲ證明スルトキ又ハ船長カ規定ノ食料ヲ供セサル事實ヲ證明スルトキハ該海員ハ其ノ雇止及第三十四條ノ規定ニ從ヒ給料ノ支拂及衣食附無賃送還ノ請求權ヲ有ス

第四十條 船舶カ諾威ノ國籍ヲ喪失セルトキハ海員ハ其ノ雇止並第三十四條ノ規定ニ從ヒ給料及衣食附無賃送還ノ請求權ヲ有ス船舶カ他ノ諾威船舶所有者ニ讓渡サレタル場合又ハ船長交代ノ場合ハ該海員ハ雇止請求ノ權利ナシ

第七節 船舶喪失ニ基ク契約終了

第四十一條 船舶カ海上ニ於ケル事故ノ爲滅失セルトキ又ハ海上ニ於ケル事故ノ後修繕不能ノ宣告アリタルトキハ雇傭契約ハ終了ス但シ雇傭契約中反對規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス又海員ハ海難救助作業ニ從事シ該宣告ノ受理セララル迄給料及衣食ノ給與ヲ受ケ其ノ地ニ留マルコトヲ要ス

海員カ諾威人ナルトキハ船舶滅失當日ヨリノ期間衣食及給料ノ給與ヲ受ケ諾威居住地迄無賃送還請求權ヲ有ス但シ第一項ニ依リ給料ノ支給ヲ受クル場合該期間ノ超過二ヶ月以上ニ亘ルコトヲ得ス航海中ノ衣食ノ支給及送還ノ費用ハ國庫ノ負擔トス但シ海員ハ第二十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ船内ニ於ケル雇入ニ應スルコトヲ要ス他ノ船内ニ於テ服務セル期間ニ對シテハ滅失セル船舶ノ所有者ヨリ給料ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ス諾威海員ノ船内私有物カ滅失船ト共ニ失ハレタルトキハ船舶所有者ハ政府發布ノ一般法規ニ從ヒ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第八節 外國人海員

第四十二條 政府ハ第二十八條及第四十一條ノ規定ニ依リ諾威人海員ノ有スル利益ハ互惠主義ニ基キ該規定ノ全部又ハ一部ニ付之ヲ外國人海員ニ適用スルコトヲ得

第九節 爭議

第四十三條 海外ニ於テ船長海員間ニ金錢問題又ハ雇傭條件ニ關シ爭議發生シタル場合ハ斯カル事件ヲ委託シ得ル最初ノ港ノ領事ニ委託スルコトヲ要ス

領事ノ裁決ハ當事者双方ヲ拘束ス但シ諾威裁判所附託ノ場合ヲ留保ス

第三章 船内服務

第一節 船舶ノ指揮

第四十四條 船長ハ船舶ニ於テ最高ノ權限ヲ有ス

第四十五條 運轉士ハ航海、天測及之ニ關スル計算、航海日誌ノ記入及保管ニ付テ船長ヲ補佐スルヲ以テ其ノ特別義務トス船長ハ乗組員及船體並其ノ附屬具及船用品ノ監督ヲ爲ス但シ第四十七條ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス船長ハ貨物ノ受渡ニ關シ必要ナル記録ヲ保管シ又貨物及糧食ノ積卸及積付ノ監督ヲ爲ス

運轉士航海日誌ヲ保管スル場合ハ船長ハ其ノ精確ナルヤ否ニ付責任ヲ負フ

第四十六條 船長執職スルコト能ハサル場合又ハ發生スルコトアルヘキ事件ニ關シ命令ヲ與ヘスシテ不在ナル場合ハ運轉士(又ハ一等運轉士)ハ猶豫スヘカラサル事件ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ要ス
船長死亡シ、船舶指揮ノ資格ヲ失ヒ又ハ退職セル場合運轉士(又ハ一等運轉士)ハ新船長ノ就職アル迄船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フコトヲ要ス

第四十七條 機關室ノ職務ヲ監督スルハ機關士ノ特別ナル義務トス機關士ハ船舶ノ汽機、汽罐及之ニ關聯セル附屬具、機具並汽罐室、汽機室、石炭庫、水槽及是等ニ關聯セル通路ヲ含ム船體等ニ關シ其ノ運轉、注意及保存ノ責任ヲ負フ機關士ハ機關室用燃料油其ノ他ノ機關部用需要品ノ支給ヲ監督シ且受入ニ際シテハ其ノ品質數量ニ注意スルコトヲ要ス尙機關士ハ機關部員及其ノ居室ヲ監督スルヲ要ス
機關士カ前項船舶各部分又ハ附屬具若ハ船用品ノ缺陷ヲ發見セルトキハ遲滯ナク之ヲ船長ニ届出ツヘシ

第四十八條 二人以上ノ機關士乗組メル場合ハ機關室ノ作業ニ關シテハ凡テ機關長ノ責任トス
機關士各自ノ職務分掌ハ機關長之ヲ定ム機關長職務スルコト能ハサル場合又ハ發生スルコトアルヘキ事
件ニ關シ命令ヲ與ヘスシテ不在ナルトキハ機關士中ノ上席者ハ遲滯ヲ許ササル發生事件ニ對シ命令ヲ發
スルヲ要ス

第二節 服務中ニ於ケル一般任務

第四十九條 船長其ノ他ノ高級職員ハ其ノ部下ヲ適當ニ使用スルコトヲ要ス何人ニ對シテモ體刑ヲ加フル
ヲ得ス

各員ハ禮儀正シク眞面目ニ溫和ニ振舞ヒ忠實ニ船内紀律及命令ニ服スルコトヲ要ス海員カ上長ヨリ命令
ヲ受ケタルトキハ明確ナル應答ニ依リ該命令ヲ理解シタルコトヲ表示スヘシ

第五十條 各員ハ上長ノ命令ニ服シ船舶及貨物ニ付注意ヲ拂ヒ萬事熱心且周到ナル注意ヲ以テ任務ヲ遂行
スルコトヲ要ス

執務ニ關シ海員ノ過失又ハ怠慢ニ因リ損害ヲ與ヘタル場合該海員ハ之カ賠償ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判
所ハ立證サレタル犯罪ノ程度、損害ノ範圍其ノ他ノ情狀ヲ酌量シ其ノ賠償額ヲ減額スルコトヲ得

第二節 職務ニ就キ職務ヲ離レ及船内ニ物品ヲ持込ムコト

第五十一條 海員ハ規定ノ時間ニ服務ノ爲乗船シタルコトヲ届出ツヘシ爾後海員ハ許可ナクシテ船舶ヲ去

ルヲ得ス

海員ハ服務時間外ニ上陸ノ許可ヲ拒マラルルコトナシ但シ船舶、船内貨物又ハ人命ノ安全ノ爲必要ナル
任務ノ遂行又ハ出帆若ハ船舶曳航ノ爲在船ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス海員カ成規ノ時間ニ乗船
スルコトヲ得サル場合ハ遲滯ナク船長ニ報告スルコトヲ要ス

第五十二條 海員カ規定時刻ニ服務ノ爲乗船セス、無斷ニテ船舶ヲ去リ又ハ上陸後規定ノ時刻ニ歸船セス
且之カ爲該船舶ノ定員ニ不足ヲ生スル場合ハ船長ハ該海員ヲ歸船セシムルニツキ警察ノ援助ヲ求ムルコ
トヲ得

第五十三條 海員脫船セルトキハ船長ハ該海員カ船内ニ遺留セル所有物ヲ適當ナル方法ヲ以テ賣却スルコ
トヲ得賣上金及船長保管ノ海員給料カ船舶所有者ノ賠償要求ニ應シ尙過剩アル場合ハ脫船海員ハ脫船後
一ケ年ヲ超過セサル期間内ニ其ノ過剩金ノ返還請求ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 海員ハ適當ノ量ノ私用物品ヲ船舶内ニ持込ムコトヲ得但シ船舶又ハ貨物ニ損害ヲ與ヘ又ハ船
内秩序ヲ亂ス虞アル物ハ之ヲ持込ムコトヲ得ス海員ハ船長ノ許可ナクシテ自己又ハ他人ノ爲賣却ノ目的
ヲ以テ物品ヲ船内ニ持込ムコトヲ得ス

海員カ許可ナクシテ船内ニ物品ヲ持込ミタルトキハ該物品ニ對シ運賃ヲ支拂ヒ又損害ヲ與ヘタルトキハ

之ヲ賠償スルコトヲ要ス

船長ハ許可ナクシテ何等カノ物品カ船内ニ持込マレタリト疑フヘキ理由アルトキハ海員立會ノ上該海員用錠物ヲ捜査スルコトヲ得船長ハ海員許可ナクシテ船内ニ持込ミタル物品ヲ管理シ、陸揚シ又必要ニ應シ海中ニ放棄スルコトヲ得

第四節 船内労働、食糧及衛生條件

第五十五條 船内労働ハ各員ノ階級ニ應シ適當ニ考慮シ之ヲ分掌セシムルコトヲ要ス

労働ヲ指揮スル者ハ災害又ハ疾病防止ノ爲規定ノ遵守ヲ監督シ適當ノ注意ヲ爲スヘシ

第五十六條 海員ハ労働時間法ニ規定セラルル事由アル場合ヲ除キ日曜日及國祭日ニ於テハ急ヲ要セサル作業ニ使用セラルルコトナシ

日曜日、國祭日ニ於テハ船長ハ海員ニ對シ船内禮拜ニ關スル便宜ヲ與フルコトヲ要ス

第五十七條 船長ハ良質且十分ナル食糧ヲ支給スル様注意シ政府ノ規定スル規定量ノ食糧ヲ支給スルヲ要ス

航海中支給ノ食糧ヲ減スル必要ヲ認メタルトキハ船長ハ其ノ減量ニ應シ相當ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條 船長ハ船内衛生状態又ハ清潔状態ヲ監督シ船内衛生又ハ清潔ニ關スル政府ノ定ムル規則ノ遵守ニ付注意スルヲ要ス

第五節 耐航力ノ検査

第五十九條 海員ノ過半数カ就航航路ニ對スル船舶ノ耐航力ニ關シ船長ニ不服ヲ申立テタルトキ又ハ機關

長カ其ノ監督ノ下ニ在ル船體各部、其ノ附屬品又ハ船用品ニ關シ不服ヲ申立テタルトキハ船長ハ諾威港

又ハ諾威領事ノ駐在スル外國ノ港ニ於テ耐航力ニ關スル法律ノ規定ニ從ヒ該船舶ノ検査ヲ行フコトヲ要

ス其ノ他ノ外國ノ港ニ於テハ船長ハ其ノ地ノ權限アル検査官ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス

該検査ノ結果耐航力ニ關スル不服カ何等根據ナキモノナルコト判明シタルトキハ不服ヲ申立タル者ハ檢

査ニ因リ生シタル費用及損害賠償ノ責ニ任ス但シ該海員カ其ノ事實ヲ知ルニ拘ラス不服ヲ申立テタル場

合ヲ除キ賠償額ハ三ヶ月分ノ給料額ヲ超ユルコトナシ

第六節 實力ノ行使

第六十條 船内紀律及秩序維持ノ爲船長又ハ船長不在若ハ執職不能ノ場合ニ於ケル代理者ハ必要ニ應シ實力ヲ行使スルコトヲ要ス

船舶危険ノ場合、海員間ニ暴動ノ起レル場合其ノ他ノ緊急事件ノ突發セル場合ハ秩序ヲ維持シ命令ヲ徹

底セシムルニ付必要ナル凡ユル手段ヲ採ルコトヲ得斯カル場合乗組各員ハ特別ノ命令ナキ場合ト雖之ニ

協力スルコトヲ要ス

命令ニ服從セサル者傷害ヲ加ヘラレタル場合ハ該傷害ニ對シ其ノ責任ヲ問フコトヲ得ス但シ必要以上ノ

殘虐ナル方法行ハレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 船舶カ諾威ノ港以外ノ地ニ在ルトキ海員カ重大ナル犯罪ヲ犯シタルトキハ船長ハ第六十四條ノ規定ニ從ヒ成ル可ク速カニ臨時査問ヲ行フコトヲ要ス但シ犯罪カ外國ノ領土ニ於テ行ハレ且其ノ地官憲ニ依リ處理セラレタル場合ヲ除ク
該事件カ諾威領事又ハ諾威警察ニ提出サルヘキモノナルトキハ船長ハ其ノ犯罪者ノ脱走ヲ豫防スル爲最善ノ注意ヲ拂フコトヲ要ス船長ハ必要ニ應シ犯罪者ヲ監禁シ又ハ他ノ強制手段ヲ採ルコトヲ得但シ必要以上ニ過酷ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 紀律罰

第六十二條 海員カ左ニ該當スル場合ハ船長ハ該海員ノ一日分以上七日分以下ノ給料ヲ與ヘスシテ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ規定時刻ニ服務ノ爲乗船シタル旨ノ届出ヲ爲サス、無斷ニテ船舶ヲ去リ又ハ上陸後規定ノ時間ニ歸船セサルトキ
- 二 規定ノ時間ニ乗船スルコト能ハサル事情ノ通知ヲ怠リタルトキ
- 三 操舵又ハ見張ノ服務中其ノ位置ヲ離レ又ハ該位置ニ於テ睡眠シ其ノ他職務怠慢ニ因リ危険又ハ損害ヲ生セシメタルトキ

- 四 服務中飲酒セルトキ
- 五 貯藏品ヲ濫費シ其ノ他不法ニ取扱ヒタルトキ
- 六 該船舶乗組員ニ非サル者ノ船内隱匿ヲ幫助シ又ハ乗船禁止ノ命令ニ違反シ乗船セシメタルトキ
- 七 海員カ不法ニ發醉飲料物其ノ他ノ物品ヲ船内ニ持込ミ又ハ不法ニ其ノ所有物ヲ船舶外ニ搬出セルトキ
- 八 海員カ上長ニ對シ不遜ノ行爲ヲ爲シ又ハ職務ニ關シ上長ノ命令ニ服セサルトキ
- 九 海員カ喧嘩ヲ爲シ其ノ他船内紀律秩序ヲ紊ス行爲アリタルトキ

第六十三條 前條ノ懲戒ハ領海内ヲ航行スル船舶又ハ諾威港内ニ在ル他ノ船舶ニ於テ及諾威港碇泊中ノ船舶内ニ於テ行ハレタル犯罪ニシテ該船舶出港前法律上ノ手續ヲ執リ得ル場合ニ於テハ之ヲ科スルコトヲ得ス

犯罪行爲ノアリタル時ヨリ十二時間以内又ハ一週間以後ニ於テハ懲戒スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アリテ除外例ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 懲戒ニ先チ船長ハ最モ經驗ニ富メル海員中ヨリ選擇セル二名ノ仲裁人ノ前ニテ査問ヲ行フコトヲ要ス該仲裁人ノ一人ハ運轉士又ハ機關士他ノ一人ハ普通海員タルコトヲ要ス運轉士又ハ機關士ヲ査問スル場合ハ仲裁人ハ二人共高等海員タルコトヲ要ス

該事件ニ關シ陳述ヲ要求セラルル證人ハ海員ノ查問ニ際シ聽取セラルヘシ仲裁人ハ船長ニ依リ意見ヲ徵セラルコトアルヘシ宣言及船長ノ決定ハ航海日誌又ハ特別查問記録ニ記入シ關係者ノ面前ニ於テ讀聞カスコトヲ要ス該記録ハ船長及仲裁人ノ署名シ其ノ正確ヲ證明スルコトヲ要ス仲裁人ハ查問ニ關シ意見ヲ補記スルコトヲ得

船長前記ノ規定ニ反スルトキハ其ノ懲戒ニ關スル決定ハ無効トス

第六十五條 懲戒ノ決定ニ際シテハ違法行為ノ悪性及事情ノミナラス行為者ノ素行ヲ斟酌スルコトヲ要ス該犯罪力微弱ニシテ警告ヲ以テ十分ナリト思料スヘキ理由アルトキハ懲戒ヲ加フルヲ要セス
船長カ職務違反ニ關シ懲戒ニ付シタルトキ其ノ宣言中ニ於テ告訴手續ノ權利ヲ保留セサル限リ爾後訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六十六條 船長ハ情狀ヲ酌量シ適當ト認ムルトキハ該懲戒罰ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得右免除ノ宣告ハ航海日誌又ハ查問記録ニ記入シ船長及證人之ニ署名スルコトヲ要ス此ノ手續ニ依ラサル宣告ハ無効トス

第六十七條 船長ノ科シタル懲戒ニ對シ海員異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ海外ニ於テハ解雇當日迄領事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

領事ノ決定ハ該事件解決ノ基礎トス但シ當事者双方ハ解雇後一ケ年以内ニ諸威裁判所ニ控告スルコトヲ

得

異議ノ申立ヲ爲サントスル海員ハ查問及決定ニ關スル確實ナル寫ヲ船長ニ請求スルコトヲ得

第六十八條 海員カ諸威領事ノ駐在セサル外國ノ地ニ於テ雇止メラレタルトキハ諸威到著後四週間以内雇止後一ケ年以内ニ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得諸威ノ港ニ於テ雇止メラレタルトキハ四週間以内ニ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得前述何レノ場合ニ於テモ海員ハ雇止メラルルトキ異議申立ノ權利ヲ保留スルコトヲ得保留事項ハ會計手帖ニ記入スルコトヲ要ス

第六十九條 海員ノ雇止ニ際シ船長ハ第六十二條ニ依リ控除セラレタル給料ヲ登記所又ハ海外ニ於テハ領事ニ支拂ヒ同時ニ確實ナル宣告書寫ヲ交付スルコトヲ要ス該宣告書寫及該控除給料ハ共ニ關係省ニ送付サルルモノトス海員カ雇止手續ヲ完了セスシテ船舶ヲ去リタル場合船長ハ該給料及抄録ヲ直接關係省ニ送付スルコトヲ要ス
右給料ハ海員及其ノ依存者保護ノ爲所定ノ細則ニ依リ之ヲ處理ス

第五章 船員外ノ乗船者

第七十條 第二章乃至第四章ノ規定ハ船舶所有者又ハ船長ニ依リ船内ニ使用セラルル所謂船員ニ非サル乗組員ニ適當ノ變更ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

第七十一條 第十條、第二十六條、第二十七條、第二十八條(第四項及第五項)、第二十九條、第三十一條、

芬蘭土船員法

(一千九百二十四年三月八日)

第一章 船長ノ契約

第一條 船舶所有者ハ契約期限ニ關シ船長ト契約書ヲ作成スヘシ

第二條 契約ノ效力ニ關シ相互ノ間ニ取極ナキ場合ニ於テハ契約ハ當事若一方ノ告知後三ヶ月ヲ經テ滿了
スルモノト看做ス但シ船舶カ契約滿了ノ際航海中ナルトキハ契約ハ船舶カ荷積若ハ荷揚ノ爲寄港シタル
最初ノ芬蘭土ノ港ニ於テ終了スルモノト看做ス船長一年半帆船船ニ勤務シ若ハ一年其ノ他ノ船舶ニ勤務シタ
ルトキハ船長ハ船舶カ荷積若ハ荷揚ヲ爲ス外國港ニ於テ告知ノ後三ヶ月ヲ經テ契約ヲ解除スルコトヲ得

第三條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ノ雇止ヲ爲スコトヲ得

船長第四條若ハ第五條ニ掲クル理由ニ依ラスシテ契約ニ定メタル期間ノ滿了前雇止ラレタルトキハ船長
ハ之ニ依リテ蒙リタル損害ノ賠償ヲ受クルコトヲ得

損害ニ關シ特ニ申出ナキトキハ雇止ラレタル船長ハ雇止契約書ニ記載セラレタル地迄、又若第二條ノ適
用ニ依リ外國ニ於テ雇止ラレタルトキハ最寄ノ芬蘭土ノ港迄衣食附ノ無賃送還並三月分ノ給料ヲ受クル
コトヲ得

第四條 船長疾病若ハ傷害ノ爲船舶ヲ指揮スル能ハサルニ至リ雇止ラレタルトキハ三ヶ月ヲ限度トシテ契約期間ノ殘期ニ對スル給料ヲ受クルコトヲ得

第一項ノ規定ハ船長カ故意、犯罪行爲、懈怠若ハ重大ナル過失ニ因リ疾病若ハ傷害ヲ受ケタルトキ又ハ契約締結ノ際之ヲ隱匿シタルトキハ船長ハ其ノ勤務シタル期間ヲ超ユル期間ニ對スル給料ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 船長無能力、不正直、重大ナル過失若ハ職務止ノ重大ナル懈怠ノ爲雇止ラレタルトキハ船長ハ其ノ勤務シタル期間ヲ超ユル期間ニ對スル給料ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 船舶航行中事故ノ爲滅失シ若ハ修繕不能ナリトノ宣告ヲ受ケタルトキハ契約ニ特別ノ規定ナキ限リ契約ハ滿了ス但シ船長ハ其ノ職務ニ止マリ船舶及貨物ニ關スル事項ヲ處理シ報酬トシテ給料ノ支拂ヲ受ケ且衣食住ノ支給ヲ受ク

海員ニ關スル第四十一條ノ規定 船長カ航海中給料及衣食ノ供給ヲ受ケ無賃ニテ本國迄送還セラレ及其ノ喪失シタル動産ニ對シ賠償ヲ受クル權利ニ之ヲ適用ス

第七條 海員ニ關スル第二十五條第一項及第二項、第二十八條並第三十條ノ規定ハ夫々船長ノ死亡シタル場合ニ於ケル給料、疾病ノ場合ニ於ケル醫療看護及無賃送還並埋葬ニ關シ之ヲ適用ス

第八條 船長カ船舶ノ收得スル運賃若ハ航海中ニ於ケル其ノ他ノ收益ノ配當(船長謝金増賃)又ハ船舶所有者

ノ利益ノ配當(手數料)ヲ受クル權利ヲ有シ且契約カ航海又ハ會計年度ノ終了前ニ滿了スルトキハ船長ハ斯クノ如クシテ保護セラレタル報酬ノ内全航海若ハ會計年度ニ比例シテ計算スヘキ勤務期間ニ相當スル部分ヲ受クル權利ヲ有ス船長カ第三條、第四條、第六條又ハ第七條ニ從ヒ其ノ勤務シタル以上ノ期間ニ對スル給料ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ船長カ其ノ退職後ノ期間ニ對スル右報酬ハ一等運轉士ノ給料ノ二倍ヨリ船長ノ分トシテ定メラレタル給料ヲ差引キタル金額ニ等シキモノトス

第二章 乗組員ノ契約

契約ノ締結

第九條 船長ハ船舶所有者ニ代リテ船舶ノ乗組員即チ士官及普通海員ヲ雇入ルルコトヲ得

船長ハ機關部乗組員ヲ雇入ルルトキハ機關長ト協議スルヲ要ス

第十條 十四年未滿ノ少年ハ船舶ニ雇入ルルコトヲ得ス十八年未滿ノ青年ハ汽船ノ火夫若ハ石炭夫トシテ雇入ルルコトヲ得ス

十八年未滿ノ青年ハ船舶ニ雇入レラルル前ニ無手數料ニテ牧師若ハ其ノ他ノ公ノ機關ノ發行スル證明書ニ依リ其ノ年齢ノ證明ヲ受ケ更ニ船舶所有者ニ於テ費用ヲ負擔スル診斷ニ依リ船内勞働ヲ爲スモ青年ノ健康及身體ノ發育ニ有害ナラサルコトノ確認ヲ受クヘシ青年相當ノ期間船舶ノ勞働ニ從事シタルトキハ一年ヲ超エサル定期診斷ニ依リ勞働ヲ繼續スルモ右青年ニ有害ナラサルコトノ確認ヲ受クヘシ診斷ヲ受

クヘキ期日カ航海中ニ到来スルトキハ再診断ヲ受ケスシテ航海ノ終了マテ労働ヲ繼續スルコトヲ得
第一項ノ規定ハ公ノ機關カ其ノ労働ヲ認可シ監督スル練習船ニハ之ヲ適用セス

十八年未滿ノ女子ハ船内労働ニ從事セシムルコトヲ得ス

十八年ニ達シタル青年ハ自ラ海員ノ契約ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海員雇入ラレタルトキハ船長ヨリ管船局ノ規定シタル様式ニ從ヒ作成セラレタル給料手帖ノ交
付ヲ受クヘシ給料手帖ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

(一) 海員ノ氏名、年齢、生年月日、誕生地及住所

(二) 海員ノ雇入ラレタル階級

(三) 契約ニ定ムル航路、期間、雇止地、雇止告知期間

(四) 契約シタル給料並給料カ航海ヲ單位トシテ定メラレタルトキハ航海期間ニ割當テタル單位時間ノ給

料

(五) 法律ニ規定ナキ場合契約セラレタル時間労働ニ對スル報酬

(六) 契約ノ其ノ他ノ條件

船内ニ於ケル労働ノ始期及終期、契約解除ノ告知並其ノ日附ハ之ヲ給料手帖ニ記載スヘシ海員ノ獲得
シタル時間外労働報酬並發生シ若ハ控除セラレタル給料若ハ時間外労働報酬ノ部分ハ亦之ヲ給料手帖ニ

記載スヘシ定メラレタル以外ノ通貨ヲ以テ給料ヲ支拂フ場合ハ爲替相場ノ割合ヲ記載スヘシ
法令ニ依リテ定メラルル規定ハ海員ノ雇入、雇止及其ノ關係手續ニ之ヲ適用ス

契約ノ有効期間

第十二條 海員期間ヲ定メテ雇入レラルルトキ若ハ雇止ノ告知ニ從フ場合ニシテ右期間若ハ告知期間カ航
行中ニ於テ滿了スル場合ニ於テハ契約ハ船舶カ荷積若ハ荷揚ノ爲ノ次ノ港ニ到達スル迄其ノ效力ヲ繼續

第十三條 契約ノ有効期間ニ關シ相互ノ間ニ契約ナキ場合ニ於テハ兩當事者ハ荷積若ハ荷揚ノ爲ノ船舶ノ
寄航シタル港ニ於テ契約解除ノ告知ヲ爲スコトヲ得但シ海員芬蘭土人ニシテ芬蘭土ニ於テ雇入ヲ受ケタ

ルトキハ兩當事者ハ荷積若ハ荷揚ヲ爲ス芬蘭土港以外ノ地ニ於テ契約ヲ修了セシムル如キ告知ヲ爲スコ
トヲ得ス

告知期間ハ海員カ士官ナルトキハ一ヶ月海員カ普通海員ナルトキハ一週間トス

第十四條 海員期間ヲ定メテ若ハ航海ヲ單位トシテ雇入レラレ契約ヲ更新セスシテ右期間若ハ航海ノ終了
後其ノ地位ニ止マルトキハ兩當事者ハ船舶カ荷積若ハ荷揚ヲ爲ス爲ニ寄航スル如何ナル港ニ於テモ契約
ヲ解除スル爲第十三條第二項ニ掲クル告知ヲ與フルコトヲ得

第十五條 最後ノ雇入ヲ受ケタル後一ケ年半帆船ニ勤務シタル海員若ハ一ケ年其ノ他ノ船舶ニ勤務シタル

海員ハ契約ニ如何ナル反對規定アル場合ト雖船舶カ荷積若ハ荷揚ノ爲寄航シタル港ニ於テ第十三條第二項ニ規定セラレタル契約解除ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第十六條 契約ニ基キ若ハ本章ノ規定ニ基キ契約ヲ撤回スルコトヲ得ル海員ハ船舶カ着港シタル場合ニ於テ遂行セサルヘカラサル業務ヲ援スル爲勤務ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ着港後二日間(帆船ノ場合ニアリテハ四日間)ヲ超ユルコトヲ得ス

宣言(declaration)ヲ下サルヘキ場合ニ於テハ海員ハ給料、衣食住ニ對スル手當ヲ受ケテ右宣言アルマテ現場ニ止マルコトヲ要ス

第十七條 海員カ雇止ヲ受ケサルヘカサル外國ノ地ニ於ケル官憲右海員ヲ當該外國ニ入國スルヲ許可セス若ハ海員ノ入國ノ爲海員ノ提供スルコト能ハサル擔保ヲ要求セラルル場合ニ於テハ契約ハ船舶カ海員ノ雇止ニ對スル右ノ如キ障礙ナキ土地ニ到達スル迄其ノ效力ヲ繼續ス

給料

第十八條 乗組員ハ契約ニ反對ノ條項ノ存セサル限り其ノ給料ノ外ニ食料ノ給與ヲ受クヘシ
給料ハ海員カ船内ニ於テ勤務ニ從事シタル當日ヨリ若海員船舶ニ到達スル爲雇入契約ノ地ヨリ旅行ヲ爲ササルヘカラサルトキハ旅行ヲ始メタル當日ヨリ其ノ給與ヲ受クヘシ
給料ハ海員カ其ノ業務ヲ去ル日マテ(去ル日ヲ含ム)乗組員カ雇止ヲ受クルトキハ其ノ雇止ヲ受クル日マ

テ(雇止當日ヲ含ム)ノ期間ニ對シ之ヲ支拂フヲ要ス但シ給料請求權カ本章ノ規定ニ基キ其ノ以前ニ消滅スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

給料ハ海員カ不法ニ其ノ勞働ヲ爲ササル期間ニ對シテ之ヲ支拂フヲ要セス

一ヶ月ニ滿タサル給料ヲ算定スル場合ニ於テ一ヶ月ハ三十日トシテ計算ス

計算ノ最後ノ決定ニ於テ海員カ正當ニ權利ヲ有スル以上ニ多額ノ前渡金ノ支拂ヲ受ケタルコト判明シタル場合ニ於テ海員カ第二十五條、第三十二條(第一項)、第三十四條、第三十八條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ契約ヲ解除セラレルモノナルトキハ其ノ受領シタル金額ヲ保有スルコトヲ得

第十九條 海員ハ船舶カ港ニ碇泊シツツアル場合ニシテ且多クモ一週一回ニ限り其ノ給料ノ支拂ヲ受クルコトヲ得

給料ハ海員カ船舶所有者宛ノ手形ヲ要求スルニアラサレハ現金ヲ以テ之ヲ支拂フコトヲ要ス給料ハ其ノ地方ノ通貨ヲ以テ其ノ地ノ金融機關カ定メラレタル給料ニ對シ支拂フ爲替相場ニ於テ之ヲ請求スルコトヲ得

外國港ヨリ芬蘭土ニ其ノ給料ノ一部ヲ送金セントスル芬蘭土海員ハ樞密院ノ定メタル規定ニ從ヒ無手数料ニテ此ノ目的ノ爲芬蘭土領事ノ援助ヲ求ムルコトヲ得國家ハ右ノ送金ニ對シ責任ヲ有ス

第二十條 海員ハ毎月一定ノ割當(allocation)ニ依リ芬蘭土ニ在ル特定人ニ其ノ給料ノ特定額ヲ支拂ヒ又

ハ芬蘭士銀行ニ當該船員ノ名ヲ以テ預入ルルコトヲ要求スルコトヲ得
右割當額ハ海員ノ同意ナクシテ之ヲ減額スルコトヲ得ス但シ給料ノ殘額ノミニテ海員ニ課セラレタル懲
戒上ノ罰金ヲ支辨シ勤務ヨリ生スル明白ナル請求若ハ海員ニ於テ其ノ正當ナルコトヲ認ムル請求ニ應ス
ルコト能ハサル範圍ニ達スルマテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 船長ハ海員カ其ノ職ヲ去ル迄毎支拂日ニ於テ海員ニ支拂フヘキ現金給料ノ三分ノ一ヲ保留ス
ルコトヲ得但シ留保額ハ給料月額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十二條 給料カ航海ヲ單位トシテ定メラレタルトキ給料手帖ニ記載セラレタル航海ノ豫定期間ハ給料
ヲ航海ノ終了前ニ支拂フトキニ給料算定ノ標準トナル

第二十三條 給料カ航海ヲ單位トシテ定メラレタル場合ニ於テ航路ヲ變更シタル爲航海ノ期間カ契約ノ際
豫期シタルヨリ延引シタルトキハ給料ノ割増ヲ受クルコトヲ得航海ノ期間カ其ノ他ノ理由ニ依リテ延

引シタルトキハ餘剩ノ期間ニ對シテ契約地ニ於ケル月額給料ヲ基準トシテ算定セラレタル給料ノ割増ヲ
支拂フヲ要ス航海カ豫期シタルヨリ短期間ニ終了シタルトキハ給料ハ契約シタル額ヲ支拂フヲ要ス

第二十四條 航海中乗組員減少シタルトキ船舶ノ航行中右ニ依リテ節約セラレタル給料ハ配付セラレタル
仕事ノ増加ニ應シテ之ヲ殘留乗組員ニ配分スルヲ要ス

第二十五條 海員死亡シタル場合ニ於テ給料請求權カ本章ノ規定ニ基キ死亡前ニ消滅シタルニアラサル限

リ其ノ給料ハ死亡ノ日マテ(死亡當日ヲ含ム)之ヲ支拂フヲ要ス

船舶其ノ全乗組員ト共ニ滅失シ給料ノ算定ノ爲滅失ノ月日若ハ少ナクトモ滅失アリタルモノト認ムヘキ
日ニ關シ報告ヲ得ルコト能ハサルトキハ海員ノ死亡ハ船舶及季候ノ性質ヲ考慮シ船舶ニ付消息アリタル
地ヨリ其ノ目的港ニ到ル航海ニ關シ理論的ニ許容シ得ラルル期間ノ滿了シタルトキニ發生シタルモノト
看做ス

海員カ第十條第一項、第二項及第四項ニ規定セラレタル條件ヲ充タスコト能ハサルカ爲契約カ無効トナ
リタルトキハ海員ハ其ノ勤務シタル期間ニ對スル給料ヲ受クルコトヲ得

疾病中ノ看護及埋葬

第二十六條 海員ハ船長ノ要求アルトキハ診斷ヲ受クルヲ要ス但シ海員ハ之ニ依リテ費用ヲ請求セララル
コトナシ

第二十七條 海員疾病ニ罹リ又ハ傷害ヲ受ケタルトキハ船長ハ船内又ハ陸上ニ於テ必要ナル手當ヲ爲スヘ
シ右ノ手當ハ衣食、治療、醫藥等ヲ包含ス

海員船舶内ノ同僚ニ危険ヲ及ホス如キ疾病ニ罹リタルモノト認ムヘキ理由アルトキハ船長ハ可成的ニ患
者ヲシテ診斷ヲ受ケシムヘシ船舶内ニ於テ傳染病ニ對シ適當ナル措置ヲトルコト能ハサルトキハ船長ハ
患者ヲ上院セシムヘシ

患者又ハ負傷者自ラ其ノ動産ノ管理ヲ爲スコト能ハサルトキハ船長之ヲ保管スヘシ
 患者又ハ負傷者外國ニ殘サレタルトキハ芬蘭士領事ヲシテ之ヲ監督セシメ若芬蘭士領事ナキトキハ其ノ
 他ノ方法ニ依リ確實ナル手段ヲ講シ且最寄ノ芬蘭士領事ニ對シ其ノ採リタル手段ヲ通告スヘシ
 第二十八條 疾病中ノ海員ノ看護費用ハ契約ノ繼續スル限り船舶所有者ノ負擔スヘキモノトス患者又ハ負
 傷者契約ニ定メタル期間ノ滿了シタル爲其ノ職ヲ去リ又ハ第三十三條ニ定ムル以外ノ理由ニ依リ其ノ以
 前ニ雇止ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ノ負擔ニ於テ其ノ契約ノ解除後看護ヲ受クルコトヲ得但シ雇止後
 六週間(芬蘭士國民ニシテ外國ニ於テ治療ヲ受クルトキハ十二週間)ヲ超ユルヲ得ス若雇止ヲ爲ササル
 トキハ右ノ期間ハ船舶ノ出航シタル日ヨリ之ヲ起算ス右ノ最後ノ場合ニ於テ外國ニ於テ契約ノ解除アリ
 タル芬蘭士海員ハ衣食付ニテ芬蘭士ニ於ケル其ノ住所マテ無賃送還ヲ受クルコトヲ得右海員ニ對シテ芬
 蘭士若ハ歸國スルニ便宜ナル地ニ向フ船舶ニ於ケル職務ヲ提供シ得ル場合ニ於テ右海員ハ健康状態ノ許
 ス限り且其ノ以前ノ職務ヨリ低カラサル階級若ハ廉ナラサル給料ヲ以テ雇入レラルル限り其ノ職務ニ就
 クコトヲ要ス

第一項ノ規定ハ故意ニ疾病ニ罹リ、負傷シ若ハ犯罪行爲、懈怠若ハ重大ナル過失ニ依リ疾病ニ罹リ若ハ
 負傷シ又ハ契約締結ノ際之ヲ隱匿シタル海員ニ之ヲ適用セス右ノ場合ニ於テ疾病中ノ看護費用ハ患者
 自身之ヲ支辨スルヲ要シ且無賃ノ送還ヲ受クルコトヲ得ス船舶所有者ノ支出シタル經費ハ海員ノ給料ヨ
 リ之ヲ控除ス

芬蘭士海員傳染ヲ爲ス程度ニ達シタル花柳病ノ爲外國ニ殘サレタルトキハ契約解除後ノ期間中ニ於ケル
 看護、治療及醫藥等ハ樞密院ノ定メタル規定ニ從ヒ國家ノ基金ヨリ之ヲ支辨ス

第二十九條 海員死亡シタルトキハ船長ハ埋葬ノ準備ヲ爲シ且之ヲ其ノ最近親ニ報告スヘシ
 船長ハ船舶内ニ殘サレタル死亡者ノ財産ノ財産目録ヲ作成シ其ノ財産ヲ其ノ相續人若ハ相續人ノ代理者
 ニ引渡スヘシ死亡カ外國ニ於テ發生シ且其ノ財産ヲ船舶内ニ保管スルトキ之ニ損害ヲ與ヘ若ハ不便ナルト
 キハ船長ハ之ヲ最寄ノ芬蘭士領事ニ引渡シ若ハ適當ナル方法ニ依リ之ヲ棄却スヘシ後者ノ場合ニ於テ
 ハ船長ハ船舶カ芬蘭士ノ港ニ到達シタルトキ船舶登録港ノ海員署長(the Superintendent of the seamen's
 office)ニ賣却賣上金ノ支拂ヲ爲スヘシ

第三十條 海員ノ埋葬費用ハ死亡カ契約ノ有効期間中又ハ海員カ船舶所有者ノ費用ヲ以テ給養セラレツツ
 アル間ニ外國ニ於テ發生シタルトキハ船舶所有者之ヲ支辨スルヲ要ス

第三十一條 船長船舶所有者ニ責任ナキ費用又ハ芬蘭士領事ノ援助ヲ求ムルコト能ハサル場合ニ於テ芬蘭
 士海員ノ疾病中ノ費用若ハ埋葬ノ費用ヲ支辨セサルヘカラサルトキハ船長ハ國家基金ヨリ其ノ費用ノ拂
 戻ヲ受クルコトヲ得

第三十二條 海員疾病若ハ負傷ノ結果相當期間其ノ職務ヲ履行スルコト能ハサルトキ又ハ乗船者ニ危険ヲ及ホス如キ疾病ニ罹リタルトキハ船長ハ右海員ヲ雇止ムルコトヲ得後者ノ場合ニ於テハ海員ハ服役中ノ全期間ニ對スル給料及契約有効期間ノ殘期間中士官ニ在リテハ二ヶ月、普通海員ニ在リテハ一ヶ月ヲ限度トスル期間ニ對スル給料ノ全額ヲ受クルコトヲ得

海員故意、犯罪行爲、懈怠若ハ他ノ重大ナル過失ニ因リ疾病ニ罹リ若ハ傷害ヲ受ケ又ハ契約締結ノ際之ヲ隱匿シタルトキハ雇止ヲ受ケタルト受ケサルトニ拘ラス其ノ職務ヲ遂行シ得ル期間ニ對スル給料ノミヲ受クルコトヲ得

第三十三條 尙船長ハ左ノ場合ニ於テ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- (一) 海員カ雇入ヲ受ケタル職務ヲ遂行スル能力ナキトキ
- (二) 海員適當ノ時ニ乗船ヲ怠リ船舶ノ其ノ補充ヲ爲サス若ハ之ニ代ル其ノ他ノ者ヲ雇入レテ出航セサルヘカラサルトキ
- (三) 海員上長ノ士官ノ命令ヲ拒ミ、上長ノ士官ニ暴行ヲ加ヘ、他ノ乗船者ヲ虐待シ、當直ニ際シ酩酊セラルコト屢々ナル等ノ職務上ノ重大ナル懈怠アルトキ
- (四) 海員浪費、詐欺若ハ罰金以上ノ制裁ヲ課セラルル犯罪ヲ犯シタルトキ若ハ船舶内ニ課稅物件若ハ出航港ヨリノ輸出、到達港ヘノ輸入ヲ禁セラレタル物件ヲ隱匿シタルコト發覺シタルトキ

右ニ掲クル理由ニ依リ乗組海員雇止ヲ受ケタルトキハ可成の第六十四條ニ規定シタル調査ヲ爲スヘシ本條ニ從ヒ雇止ヲ受ケタル海員ハ其ノ職務ヲ履行シタル期間ヲ超エテ給料ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 海員第三十二條及第三十三條ニ規定シタル以外ノ理由ニ依リテ雇止ヲ受ケタルトキハ右海員ハ之ニ依リテ蒙リタル損失ノ賠償ヲ受クルコトヲ得

損失ニ對スル申立書ノ提出ナキトキハ海員ハ士官ニアリテハ二ヶ月分普通海員ニアリテハ一ヶ月分ノ給料ノ支拂ヲ受ケ且衣食付ニテ契約ニ締結セラレタル雇止地迄ノ無賃送還ヲ受ケ又芬蘭土港ニ於ケル契約解除ニ關シ第十三條ノ規定適用セラレ且海員外國ニ於テ雇止ヲ受ケタルトキハ最寄ノ芬蘭土港マテノ無賃送還ヲ受クルコトヲ得

雇止ヲ請求スル海員ノ權利

第三十五條 海員船舶ノ指揮權ヲ獲若ハ海員カ運轉士若ハ機關士ニ昇進シ又ハ運轉士若ハ機關士ノ如キ現在ヨリ高キ階級ニ昇進シ得ヘキコトヲ明カニスルトキ又ハ雇入ヲ受ケタル後海員ノ利益ノ爲雇止ヲ受クルヲ必要トスル事情發生シタルトキハ海員ハ雇止ヲ受クルコトヲ得但シ右海員ハ船舶所有者ノ費用ヲ増加セシムルコトナク自己ニ代リテ其ノ職ニ就クヘキ他ノ資格者ヲ供給スルコトヲ要ス

右ノ場合ニ於テ給料ハ海員カ事實勤務シタル期間ニ對シテノミ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 船舶ノ目的港ニ於テ惡質ノ傳染病流行シ海員契約ノ締結後迄此ノ事實ヲ知ラサルトキハ右海

員ハ船舶カ出航セサル以前ニ於テハ直ニ其ノ他ノ場合ニ在リテハ海員カ右ノ事實ヲ知リタル後ノ最初ノ寄航港ニ於テ雇止ヲ請求スルコトヲ得後ノ場合ニ於テハ給料ハ海員カ事實勤務ヲ爲シタル期間ニ對シテノミ支拂ヲ請求スルコトヲ得

戰時船舶カ拿捕セラレ戰爭上ノ損害ヲ蒙ル危險アリ又ハ危險カ事實上増加シタル場合ニ於テ之ニ同一ノ規定ヲ適用ス

第三十七條 海員特定航海ニ對シテ雇入ヲ受ケタル後航路カ甚シク變更セラレタルトキハ海員ハ船舶出航セサル以前ニ在リテハ直ニ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ海員カ其ノ變更ヲ知リタル後船舶ノ最初ノ寄航港ニ於テ雇止ヲ受クルコトヲ得

海員航海ノ變更ノ故ヲ以テ其ノ職ヲ去リタルトキハ士官ニアリテハ最高一ヶ月分普通海員ニ在リテハ半ヶ月分ノ給料ニ達スルマテ右ニ依リテ蒙リタル損害ノ賠償ヲ受クルコトヲ得海員更ニ船舶ノ出航前其ノ職ヲ去ルトキハ契約ヲ爲シタル地迄、其ノ他ノ場合ニ在リテハ雇止地迄無償ニテ送還セラレ衣食ノ給與ヲ受クルコトヲ得損害ニ關スル申立書ノ提出ナキトキハ海員ハ最高額ニ付テ本條ニ定メタル金額ヲ受クルコトヲ得

第三十八條 船舶カ當該航海ニ對シ耐航條件ヲ備ヘス航行中ニ於テ乗船者ノ生命ニ對スル危險カ豫期セラレル程度ニ不完全ニ艤裝セラレ充分ナル乗組ヲ有セス、過重ニ且不當ニ積荷ヲ爲サレ若ハ底荷ヲ積込マ

レ又ハ乗組員ノ宿泊室カ航海ノ初ニ當リテ明白ニ不衛生ニシテ船長カ斯ル缺陷ニ對シ必要ナル救濟手段ヲ採ルヲ怠リタルトキハ海員ハ雇止ヲ受ケ且第三十四條ニ規定シタル賠償ヲ受クルコトヲ得

船長第五十九條ノ規定ニ反シテ船舶検査ニ對スル要求ニ應スルコトヲ怠リタルトキ亦同一ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 海員船長ヨリ虐待ヲ受ケ、船長ニ對シ制抑ヲ請求スルモ尙船内ノ同僚ニ依リ虐待ヲ受ケ、船長法律若ハ型約ニ從ヒ之ニ適當ナル食物ヲ給與スルヲ怠リ又ハ支拂フヘキ給料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ海員ハ雇止ヲ受ケ且第三十四條ニ規定シタル賠償ヲ受クルコトヲ得

第四十條 船舶外國人ニ賣却セラレ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ芬蘭土ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ海員ハ雇止ヲ受ケ第三十四條ニ規定スル賠償ヲ受クルコトヲ得

前項ニ掲クル以外ノ船舶所有者ノ變更又ハ船長ノ變更アルモ海員ハ之ヲ以テ其ノ職ヲ去ル法律上ノ原因ト爲スコトヲ得ス船舶所有者破産シタル場合ニ於テハ第十三條ノ規定ニ從ヒ契約ヲ解除スル爲兩當事者ハ告知ヲ爲スヘシ

船舶ノ滅失ニ基ク契約ノ解除

第四十一條 船舶航行中事故ノ爲滅失シ若ハ事故ノ後修繕不能ナリト宣言セラレタルトキハ海員ノ契約ハ之ニ反スル約款ヲ有セサル限り其ノ效力ヲ失フ但シ海員ハ宣言書ノ提出アル迄給料、衣食住ニ對スル手

當ヲ受ケ救助作業ニ參加シ又ハ其ノ職ニ留マルコトヲ要ス事故カ國內ニ於テ發生シタルトキ海員ハ更ニ最高二週間ヲ限度トシテ契約ニ定メラレタル告知期間ニ對スル給料ヲ受クルコトヲ得
 船舶滅失ノ爲芬蘭土海員カ契約ヲ解除セラルトキ海員ハ國費ヲ以テ芬蘭土ニ於ケル住所迄ノ無料送還ト航海中ニ於ケル衣食ヲ給セラレ且航海期間中船舶所有者ヨリ給料ヲ受クルコトヲ得但シ海員ハ第二十八條第一項ノ規定ニ從ヒ他ノ船舶ニ勤務スルコトヲ承諾スルヲ要ス
 芬蘭土海員ハ樞密院ノ定メタル規定ニ從ヒ船舶滅失ノ際喪失シタル動産ニ對シ船舶所有者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ得

外國海員及芬蘭土海員ニ對スル待遇ノ平等

第四十二條 政府ハ互惠主義ニ基キ第二十八條及第四十一條ニ從ヒ芬蘭土海員ニ保證セラレタル利益ヲ外國人海員ニ擴張スル命令ヲ發スル權限ヲ有ス

勤務條件ニ關スル爭議

第四十三條 海員雇止ヲ受クル場合船長ノ作成シタル計算書ニ満足スルコト能ハサルトキハ海員署長ニ對シ其ノ正否ノ審査ヲ要求スルコトヲ得

船舶芬蘭土以外ノ地ニ在ルトキ勤務條件ニ關シテ船長ト乗組員トノ間ニ爭議發生シタルトキハ爭議ハ其ノ解決ヲ求ムル爲當該地ノ芬蘭土領事若其ノ地ニ芬蘭土領事アラサルトキ又ハ領事事件ニ關與スル能ハ

サルトキハ航海中遭遇シタル次ノ芬蘭土領事ニ之ヲ附記スヘシ

海員署長又ハ領事ノ決定ハ事件カ芬蘭土裁判所審理ニ繫屬スルマテ有效トス

第三章 船長及乗組員ノ義務

船舶ノ指揮

第四十四條 船長ハ船舶内ニ於テ最上ノ權限ヲ有ス

第四十五條 運轉士ノ特別ナル職務ハ船長カ船舶ヲ操縦シ航海ニ關係アル觀測及計算ヲ爲スヲ援助シ、航海日誌ノ管理ニ助力シ、第四十七條ニ特別ナル規定アル場合ヲ除キ乗組員ヲ監督シ、附屬品及設備ト共ニ船舶ヲ監督シ、荷積及荷揚ヲ監督シ、積込マルル貨物及荷揚セラルル貨物ニ就キ帳簿ヲ備ヘ且之ヲ管理シ並貨物及必需品ノ積込ヲ監督スルコトトス

第四十六條 船長在船セス又ハ指揮ヲ爲スコト能ハサルトキ運轉士ハ(二人以上ノ運轉士存スルトキハ上席者)船長カ未タ指揮セサル事件ニシテ遲滯スヘカラサル事件ニ關シ命令ヲ與フル權限ヲ有ス

船長死亡シ、船舶ヲ指揮スル資格ヲ失ヒ又ハ其ノ地位ヲ去リタルトキ運轉士(二名以上運轉士存スルトキハ上席者)ハ新ニ船長ノ任命アリ且其ノ指揮ヲ採ルニ至ルマテ船長ノ地位ニ就クヘシ

第四十七條 機關士ノ特別ナル職務ハ機關室ノ職務ヲ指揮シ、船舶ノ機關裝置及之ニ關係アル器具類、石炭庫、水槽及小通路、機關室及汽罐室ニ屬スル部分ノ船体ニ付其ノ運轉、警戒維持ヲ監督シ、機關ニ對

スル燃料其ノ他ノ必需品ノ供給ヲ監督シ、燃料必需品ノ積込アリタルトキ其ノ品質及數量ヲ調査シ並機關部員及機關部員ニ割當テラレタル部屋ヲ監督スルコトトス
第一項ニ掲クル船体ノ部分若ハ設備ニ故障發生シ又ハ欠陥發見セラレタルトキハ機關士ハ遲滯ナク之ヲ船長ニ報告スヘシ

第四十八條 船舶内ニ二人以上ノ機關士存スルトキハ機關長ハ機關室ノ職務ノ履行ニ付責任ヲ有ス機關長ハ機關士ニ仕事ヲ分配スヘシ
機關長在船セス又ハ其ノ職務ヲ履行スルコト能ハサルトキハ機關士中ノ上席者ハ機關長ノ指揮セサリシ事件ニシテ遲滯スヘカラサル事件ニ關シ命令ヲ與フル權限ヲ有ス

海員ノ一般職務

第四十九條 船長及乗組各員ハ其ノ下僚ヲ遇スルニ同情ヲ以テシ且合理的ナルヲ要ス体刑ハ何人ニ對シテモ之ヲ加フルコトヲ得ス

乗組員ハ各自適正謹直且平穩ニ行動シ上長ニ對スルニ禮儀ヲ以テシ又船舶ノ秩序ト風紀ノ維持ニ關スル規定ヲ忠實ニ遵守スルヲ要ス乗組員上官ヨリ命令ヲ受ケタルトキハ明快且適當ナル答ヲ以テ命令ヲ了解シタルコトヲ表示スヘシ

第五十條 乗組員ハ各自忠實ニ其ノ職務ニ關スル上長士官ノ命令ニ從ヒ船舶及貨物ニ付注意ヲ拂ヒ且其ノ

他ノ點ニ關シ注意深ク忠實ニ職務ヲ履行スヘシ

海員職務ノ履行ニ際シ過失又ハ懈怠ニ依リ損害ヲ發生セシメタルトキハ損害賠償ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所ハ證據、損害ノ程度又ハ其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ賠償額ヲ合理的限度ニマテ減額スルコトヲ得

職務ニ就クコト、之ヨリ離ルルコト及船内ニ物品ヲ搬入スルコト

第五十一條 海員ハ規定ノ時間ニ勤務ノ爲乗船シタルコトヲ報告スヘシ海員ハ爾後許可ナクシテ船舶ヲ去ルヲ得ス

船舶港又ハ安全ナル碇泊所ニ碇泊スルトキハ海員ハ自由時間中上陸ヲ爲ス爲船舶ヲ去ルコトヲ拒マルルコトナシ但シ船舶ニ於テ積荷又ハ乗船者ノ安全ヲ確保スル爲必要ナル職務ノ遂行又ハ急迫セル船舶ノ出航、曳航ヲ爲ス爲在船ノ必要ナキ場合ニ限ル海員ハ上陸ヲ爲ス爲無手数料ニテ船舶ノ端舟ヲ使用スルコトヲ得

海員規定ノ時間ニ乗船スルコト能ハサルトキハ遲滯ナク之ヲ船長ニ報告スヘシ
第五十二條 船舶外國ノ領海ニアルトキ、海員規定ノ時間ニ乗船スルヲ怠リ、許可ナクシテ上陸シ、上陸シタル後定メラレタル時間ニ歸船スルヲ怠リ且船舶カ右ノ者居ラサレハ充分ナル乗組員ヲ有セサルトキ船ハ長右ノ者ヲ船舶ニ連行スル爲權限アル警察官憲ノ援助ヲ要求スルコトヲ得

第五十三條 海員脱船シタルトキハ船長ハ適當ナル方法ニ依リ船舶内ニ殘留セラレタル脱船者ノ動産ヲ賣

却スルコトヲ得

賣却代金及引渡ヲ爲ササル給料カ船舶所有者ノ賠償請求額ニ應シテ尙殘餘アルトキハ海員ハ脱船後一ケ年内ニ未拂額ヲ受取ルコトヲ得海員右期間内ニ右ノ要求ヲ爲スヲ怠リタルトキ右金額ハ船舶登録港ノ海員署ニ歸屬スヘク船舶所有者ハ直ニ右金額ヲ海員署ニ送付スヘシ

第五十四條 海員ハ私用ノ爲適當量ノ必需品ヲ船内ニ持込ムコトヲ得但シ船舶及貨物ハ之カ爲危險ヲ感セシメラレ若ハ無秩序トナルコトナキヲ要ス海員ハ自己ノ計算ノ爲ナルト若ハ他入ノ爲ナルトヲ問ハス船長ノ許可ナクシテ商業上ノ目的ヲ以テ物品ヲ船内ニ持込ムコトヲ得ス

海員ハ不法ニ持込ミタル物品ニ對シ運賃ヲ支拂フヘシ海員ハ損害ノ發生アリタル場合ニ賠償金ヲ支拂スヘシ船長物品カ不法ニ船内ニ持込マレタリト信スヘキ理由存スルトキハ乗組員ノ錠物等ニ就キ捜査ヲ爲スコトヲ得船長ハ右ニ依リテ發見セラレタル物品ヲ管理シ之ヲ陸上ニ送還シ又ハ必要ナル場合ニ於テ之ヲ船舶外ニ放棄スルコトヲ得

船内勞働、糧食及衛生條件

第五十五條 船内勞働ハ各乗組員ノ階級ヲ考慮シ之ヲ配置スヘシ勞働ノ監督ヲ爲ス者ハ現行規定ニ從ヒ事故並健康ニ對スル危險ヲ防止スル爲必要ナル手段ヲ執ルコトヲ要ス

第五十六條 船内勞働時間ハ特別法ノ定ムル規定ニ從フヘシ

右ノ特別法ノ適用ナキ船舶ニ於テハ日曜日若ハ慣習上ノ國家休日ニ於テ急迫ナラサル勞働ニ乗組員ヲ從事セシムルコトヲ得ス

乗組員ノ要求アルトキハ乗組員ニ對シ可成の日曜日及聖日ニ於ケル祈禱及禮拜ニ出席スル便宜ヲ與フルコトヲ要ス

第五十七條 船長ハ乗組員ニ對シ船舶ニ於テ責任ヲ有スル供給量ノ範圍ニ於テ規定ニ從ヒ良質且充分ナル食物ヲ給與スルコトヲ要ス

船長航海中供給量ヲ減スル必要アリト認ムルトキハ乗組員ハ之ニ對シ合理的賠償ヲ受クルコトヲ得

船長ハ乗組員ノ權利ヲ侵害スルコトナク氣候及健康ヲ考慮シ食事ニ適度ノ變化ヲ與フルコトヲ得糧食カ定量宛分配セラレタルトキ船長ハ乗組員ノ量目ヲ調査センコトノ要求ヲ拒ムヘカラス

船長ハ乗組員ノ食物給與ニ關シテ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第五十八條 船長ハ船内ノ衛生條件、設備及清潔ニ注意シ是等ニ關スル規定ヲ嚴守セシムヘシ船舶ノ検査ヲ要求スル權利

第五十九條 半數以上ノ乗組員船長ニ對シ第三十八條ニ掲タル條件ヲ調査スル爲検査ヲ要求シタルトキ又ハ機關長其ノ監督スル船舶ノ部分、附屬品及設備ニ關シ同一ノ要求ヲ爲シタルトキハ船長ハ國內ニアリ

テハ權限アル検査官國外ニアリテハ芬蘭土領事ニ依ル検査ヲ受クル手配ヲ爲スコトヲ要ス芬蘭土領事當該地ニ存セサルトキハ船長ハ最寄芬蘭土領事ニ對シ検査ノ執行ヲ要求シ若ハ當該地ノ權限アル官憲ニ對シテ検査ヲ執行スル爲検査官ニ對シ命令ヲ發セラレンコトヲ求ムヘシ

船長ニ對スル検査ノ申請カ積込ノ開始後マテ爲サレヌ且検査ノ爲積荷ノ移轉ヲ必要トスルトキハ船長ハ申請ニ應スル義務ヲ有セス但シ運轉士若ハ機關士申請ニ參與シ又ハ機關長其ノ權限内ノ事項ニ關シテ申請ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

要求ニ依ル検査ノ結果申請ヲ爲スヘキ合理的根據ナシト判明シタルトキハ検査ノ申請ヲ爲シタル者ハ右ニ依ル費用ト損害トニ對シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

本條ノ検査カ外國ニ於テ爲サレタル場合ニシテ領事検査ニ關與シタルトキハ領事、其ノ他ノ場合ニ在リテハ船長、遲滞ナク検査ニ關スル報告書ヲ管船局ニ送付スヘシ

實力ノ行使

第六十條 船内ノ秩序及紀律ノ維持ヲ必要トスルトキ船長又ハ船長不在若ハ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テハ船長ニ代リテ指揮權ヲ行フ者ハ實力ヲ行使シテ服從ヲ確保スルコトヲ得船舶危險ニ瀕シタルトキ、船内ニ暴動發生シタルトキ、其ノ他必要ノ場合ニ於テ強情ナル者ヲ服從セシメ又ハ秩序ヲ回復スル爲ニ必要ナル凡テノ手段ヲ講スルコトヲ得右ノ場合ニ於テ乗組員ハ各自特別ナル命令ナキ場合ト雖船長

ヲ援助スル義務ヲ有ス

服從ヲ拒ミタル者傷害ヲ受ケタル場合ニ於テ右ニ就キ責任ヲ有スルモノハ無罪トス但シ必要以上ノ實力ヲ使用セサリシ場合タルヲ要ス

第六十一條 船舶芬蘭土港ニ在ラサル場合乗組員禁錮以上ノ刑ヲ科セラルル罪ヲ犯シタルトキ船長ハ可成的速カニ第六十四條ニ從ヒ違法行爲者ニ關シテ調査ヲ爲スヘシ但シ違法行爲カ當該地ノ官憲ニ依リ處理セラルルトキハ此ノ限ニ在ラス

船長ハ犯行者カ船舶ヲ去ラサル様注意シ此ノ目的ノ爲右犯行者カ芬蘭土領事若ハ芬蘭土ニ於ケル警察官憲ニ引渡サルルマテ必要ナルトキハ之ヲ船内ニ監禁スルコトヲ得但シ船長ハ必要以上ニ犯行者ヲ虐待セサル様注意スヘシ

第四章 懲 戒

第六十二條 登録セラレタル契約ニ從ヒ乗組員ノ雇入ヲ爲シタル船舶ニ於テハ船長ハ左ノ場合ニ於テ一日以上七日間未滿海員ノ給料ヲ差止ムルコトヲ得

- (一) 規定ノ時ニ乗船スルヲ怠リ、許可ナクシテ上陸シ又ハ上陸後適當ノ時期ニ歸船スルヲ怠リタルトキ
- (二) 適當ノ時期ニ歸船スルコト能ハサル事情ニ付通知ヲ爲スヲ怠リタルトキ
- (三) 勤務上ノ懈怠又ハ過失ニ因リ損害又ハ危險ヲ發生セシメタルトキ

- (四) 勤務中飲酒シタルトキ
- (五) 貯藏品ヲ濫費シ其ノ他不當ニ之ヲ處分シタルトキ
- (六) 船舶ニ屬セサル者ヲ船内ニ隱匿スルコトニ加擔シ又ハ規定ニ反シテ他人ヲ船舶ニ乗船セシメタルトキ
- (七) 秩序ヲ紊シ若ハ危險ヲ發生セシムル如キ酒精飲料其ノ他ノ物品ヲ不法ニ船内ニ持込ミ又ハ不法ニ船舶ヨリ其ノ私有動産ヲ移轉シタルトキ
- (八) 上長ニ對シ不當ナル行動アリタルトキ又ハ其ノ職務ニ關スル上長士官ノ命令ニ從フヲ怠リタルトキ
- (九) 船舶其ノ他勞働ヲ爲ス場所ニ於テ喧嘩其ノ他ノ無秩序ヲ惹起セシメタルトキ又ハ秩序若ハ紀律ニ反スル行動アリタルトキ

第六十三條 制裁ハ特別ナル理由存スル場合ヲ除キ船長カ違法行爲ヲ知リタル後十二時間ヲ經過セサル間ニ若ハ違法行爲ノアリタル後七日ヲ經過シタル後ハ之ヲ課スルコトヲ得ス

第六十四條 制裁ノ課セラルル以前ニ於テ犯行並事情ノ詳細ヲ知ル爲調査ヲ爲スヘシ調査ハ全乗組員中ノ最モ經驗アル者ノ中ヨリ船長ノ選抜シタル二名ノ仲裁人ノ面前ニ於テ船長之ヲ爲スヘシ仲裁人ノ一名ハ可成的運轉士若ハ機關士他ノ一名ハ普通海員タルヘシ調査ヲ受クヘキ行動ヲ爲シタル者カ運轉士若ハ機關士ナルトキハ二名トモ可成的士官タルヲ要ス

事件ニ付報告ヲ與ヘ得ヘシト認メラルル海員其ノ他ノ者存スルトキハ調査ノ際之ヲ訊問スヘシ海員並仲裁人ハ事件ノ闡明ニ資スル事項ニ關シテ訊問ヲ受クヘキコトヲ要求スルコトヲ得宣言並船長ノ決定ハ之ヲ航海日誌ニ記入シ且海員及仲裁人ニ之ヲ讀聞カスヘシ記載ハ船長及仲裁人ノ署名ニ依リテ其ノ正確ナルコトヲ證明スヘク又仲裁人ハ之ニ對シ調査ノ結果生シタル意見ヲ追加スルコトヲ得

船長調査ノ際手續ニ關スル右ノ規定ヲ遵守スルヲ怠リタルトキハ制裁ニ關スル決定ハ無効トス

海員左ノ規定ニ從ヒ船長ノ決定ニ對シテ上訴ヲ爲サントスルトキハ調査並決定ニ關スル記載ノ寫ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 制裁ハ違法行爲ノ性質、事情並懈怠者ノ以前ノ行爲ヲ斟酌スルヲ要ス違法行爲カ輕微ニシテ單ニ警告ヲ與フルノミニテ充分之ヲ處理シ得ヘキ理由存スルトキハ制裁ハ之ヲ課スルニ及ハス

船長ハ自己ノ制裁ヲ課シタル違法行爲ニ關シ法律上ノ手續ヲ開始シ又ハ法律上ノ手續ノ開始ヲ要求スルコトヲ得ス但シ制裁ヲ課スル決定ニ於テ明白ニ其ノ權利ヲ留保シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 船長ハ機會アルトキハ海員カ其ノ職ヲ去ル以前ニ制裁ノ全部又ハ一部輕減スルコトヲ得

制裁ノ減輕ニ關スル決定ハ之ヲ航海日誌ニ記入シ船長及二名ノ證人之ヲ署名スヘシ右ノ署名ナキトキハ決定ハ無効トス

第六十七條 海員制裁ヲ課シタル船長ノ決定ニヨリ侵害ヲ受ケタリト思量スルトキハ海員カ雇止ヲ受クル

トキノ當該海員署長又ハ雇止ヲ受クル前航海中船舶カ少ナクトモ二日以上碇泊スヘク豫期セラルル港ノ最初ニ遭遇シタル海員署長ニ決定ノ再審査ヲ請求スルコトヲ得海員署長ハ制裁カ正當且合理的ナルヤ否ヲ調査シ之ニ對シ其ノ決定ヲ與ヘ之ヲ航海日誌ニ記入シ請求アルトキハ海員ニ其ノ寫ヲ交付スヘシ

第一項ニ規定スル方法ニ依ル船長ノ決定ノ審査ナキトキハ海員ハ雇止ノ後一ケ年以内、雇止ナキトキハ海員カ其ノ職ヲ去リタル後一ケ年以内ニ權限アル芬蘭土裁判所ニ上訴ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 第六十七條ニ掲クル場合ニ於テ船長又ハ海員カ海員署長ノ決定ニ依リ侵害ヲ受ケタルトキハ船長又ハ海員ハ町裁判所長 (raastivankiens) ニ對シ右決定ノ審査ヲ要求スルコトヲ得但シ決定ハ斯ル裁判所ノ存在スル都市ノ海員署長之ヲ與ヘタルモノナルヲ要ス海員署長ノ決定カ外國ニ於テ與ヘラレ又ハ町裁判所ノ存在セサル芬蘭土ノ都市ニ於テ與ヘラレタルトキハ右ノ要求ハ船舶カ町裁判所ノ存在スル港ニ到達シ且船舶カ少ナクトモ二日間右ノ港ニ碇泊スル豫定ナルトキ町裁判所長ニ對シ之ヲ提出スヘキモノトス右ノ要求ハ可成の速カニ且船舶ノ出航前適當ノ時期ニ之ヲ提出スルヲ要ス審査ハ町裁判所長若ハ裁判所カ右ノ目的ノ爲ニ任命スル裁判所ノ判事之ヲ爲スヘキモノトス

本條ニ掲クル審査要求セラレタルトキ判事ハ遲滯ナク船長、海員及事件ニ對スル報告ヲ與ヘ得ヘシト認メラルル其ノ他ノ者ヲ召喚シ船長ニ對シテハ航海日誌ノ提出ヲ要求スヘシ海員署長當該地ニ存在スルトキハ海員署長ヲモ召喚スヘシ召喚ニ應スルヲ怠リタル者ニ對シテハ罰金ヲ課シ且之ニ應スル制裁ヲ課ス

ルコトヲ得判事原告及訊問スルヲ必要ナリト思量シタル其ノ他ノ者ノ訊問ヲ終リタルトキハ遲滯ナク事件ニ對シテ判決ヲ與フルヲ要ス判決ハ之ヲ航海日誌ニ記入スルヲ要ス判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス判事當該地ヨリ船舶出航シタル爲事件ヲ解決スルコト能ハサルヲ了解シタルトキハ事件ニ付其以上ノ審査ヲ省略スルコトヲ得

第一項及第二項ニ掲クル方法ニ於テ爲ス海員署長ノ決定ノ調査ナキ場合決定ニ對シ權限アル芬蘭土裁判所ニ上訴ヲ爲ス船長及海員ノ權利ニ關シテハ第六十七條第二項ノ規定ヲ適用ス

第六十九條 制裁トシテ沒收セラレタル海員ノ給料ハ船舶登録港ノ海員署ニ歸屬ス船長ハ乗組員ノ雇止ヲ爲ストキ右海員署ニ送付センカ爲海員署長ニ對シテ領收證引換ニ給料ヲ支拂ヒ之ヲ航海日誌ニ記入スヘシ右ノ場合ニ於テ船長ハ制裁ニ關スル決定ノ寫並第六十四條ニ基ク調査ニ關スル記載ノ寫ヲ引渡スヘシ

第五章 所謂乗組員ニ屬セサル乗船者

第七十條 海員ニ關スル本法ノ規定ハ船長若ハ船舶所有者ニ依リ雇入ヲ受ケ然カモ所謂乗組員ニ屬セサル船内勤務者ニ之ヲ準用ス

第七十一條 第十條(第一項及第四項)、第二十六條、第二十七條、第二十八條(第三項)、第二十九條、第三十一條、第四十九條、第五十條、第五十四條、第五十七條、第五十八條、第六十條及第六十一條ハ船

船所有者又ハ船長ニ依リ雇入ヲ受ケサル船内勤務者ニ之ヲ準用ス
右ノ者ハ船長カ船舶ノ安全ヲ確保スル爲必要ナリトシテ之ニ配分シタル労働ヲ全力ヲ盡シテ履行スルヲ要ス

第七十二條 第七十一條第一項ノ規定ハ海法ノ規定ニ從ヒ領事ノ命令ニ基キ本國ニ送還セラルル海員ニ之ヲ準用ス

送還海員要求ヲ受ケタルトキハ相當ノ報酬ヲ得テ其ノ全力ヲ盡シテ船内労働ニ従事スヘシ海員ノ前ノ職務ト現在ノ職務トノ關係ニ就テハ相當ノ考慮ヲ拂フヲ要ス

第六章 罰 則

第七十三條 船長若ハ其ノ代理者ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ罰金ニ處ス

- (一) 第十條第三項ニ掲クル場合以外ニ於テ船舶ニ十四年未滿ノ幼年者ヲ使用シ、汽船ニ於ケル火夫若ハ石炭夫トシテ十八年未滿ノ青年者ヲ使用シ、第十條第二項ノ規定ニ違反シテ十八年未滿ノ青年者ヲ船舶ノ勤務ノ爲ニ雇入レ又ハ十八年未滿ノ女子ヲ船舶内ニ於テ使用スルトキ
- (二) 雇入ヲ受ケタル者ニ給料手帖ヲ交付スルヲ拒ミタルトキ
- (三) 船内ニ在ル患者若ハ負傷者ニ關シ又ハ傳染ノ危険ヲ防止スルコトニ關シ本法ニ基キ課セラレタル職務ヲ回避スルトキ

(四) 乗組員カ雇止ヲ受クル以前調査ヲ爲スコトニ關スル本法ノ規定ノ遵守ヲ怠リタルトキ

(五) 第四十三條ニ掲クル場合ニ於テ海員署長又ハ領事ノ決定ニ從ハサルトキ

(六) 法律上ノ理由ナクシテ乗組員カ其ノ自由時間ニ上陸ヲ爲ス爲船舶ヲ去ル許可ヲ與フルヲ拒ミ又ハ右

(七) ノ目的ノ爲船舶ノ端舟ヲ使用スルヲ拒ミタルトキ

(八) 船舶内ニ於ケル糧食ニ關スル規定ニ違反スルトキ

第五十九條第四項ノ規定ニ從フヲ怠リタルトキ
第一號、第五號及第七號ニ掲クル違法行爲カ船舶所有者ノ了解又ハ同意ノ下ニ行ハルル場合ニ於テハ船舶所有者ニ對シ船長ト同一ノ制裁ヲ課スヘシ

青年者ノ雇入カ親權者又ハ後見人ノ了解又ハ同意ノ下ニ行ハルル場合ニ於テハ右親權者及後見人ハ之ヲ罰金ニ處ス

第七十四條 船長又ハ其ノ代理者乗船者ニ對スル實力行使權若ハ監禁ヲ爲スノ權利又ハ本法ニ基キ附與セラレタル制裁權ヲ濫用シ又ハ乗船者ヲ不當ニ酷烈ニ待遇スルトキハ該違法行爲カ普通法ノ重罪ノ刑ヲ科セラルルニアラサル限り罰金若ハ六月未滿ノ禁錮ニ處ス

事情特ニ重大ナルモノアルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ船舶ノ指揮權ノ行使ニ特別ノ條件ヲ附スルヲ要スル場合之ニ對シ特定期間又ハ永久ニ右指揮權ヲ剝奪スルノ宣告ヲ下スコトヲ得裁判所斯ル宣告ヲ下シ

タルトキハ遲滞ナク之ヲ管船局ニ報告スヘシ

第七十五條 海員勤務ヲ回避スル意思ヲ以テ正當ノ時間ニ勤務ニ就クヲ怠リ又ハ同一ノ意思ヲ以テ不法ニ船舶ヲ離ルルトキハ斯ル脱船カ船舶及人命ニ危険ヲ感セシムル如キ状態其ノ他特ニ重大ナル状態ニ於テ行ハレタルトキハ之ヲ一年未滿ノ禁錮ニ處ス

船舶ニ雇入ヲ受ケタル海員其ノ他ノ場合ニ於テ脱船シタルトキハ之ヲ罰金ニ處ス

第七十六條 海員ノ脱船ヲ教唆シ又ハ口頭若ハ行動ヲ以テ海員ノ脱船ニ助力シタル者ハ罰金又ハ一年未滿ノ禁錮ニ處ス

第七十七條 船舶ニ乗組メル者船長又ハ其ノ代理者ニ反抗シ若ハ之ニ服従スルヲ拒ミタルトキハ罰金ニ處シ事情特ニ重大ナル場合ニアリテハ一年未滿ノ禁錮ニ處ス

船長又ハ上長士官其ノ職務ヲ履行セントスルニ當リ之ニ侵害ヲ加ヘ又ハ暴力ヲ以テ之ヲ脅迫シ以テ勤務ニ關シテ或ル行動ヲ爲サシ、職務ノ履行ヲ妨害シ若ハ斯ル行動ニ就キ復讐ヲ爲サントシタル者ハ之ヲ禁錮ニ處シ事情特ニ重大ナルモノアルトキハ二年未滿ノ懲役ニ處ス事情酌量スヘキモノアルトキハ之ヲ罰金ニ處ス

第七十八條 船内ニ於テ暴動勃發シタルトキ教唆者又ハ首謀者ハ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ暴動ニ參加シタル者ハ之ヲ六月未滿ノ禁錮、事情酌量スヘキモノアルトキハ罰金ニ處ス、暴動ノ繼續中人若ハ財

産ニ對シ暴行加ヘラレタルトキハ教唆者又ハ首謀者ハ之ヲ六年未滿ノ懲役ニ處シ之ニ參加シタル者ハ二年未滿ノ懲役ニ處ス

第七十九條 船舶ニ勤務スル者勤務上ノ過失又ハ懈怠ニ依リ航行中事故ヲ生セシメタルトキハ右違法行爲カ普通法ノ重罪ノ刑ヲ科セラルルニアラサル限り之ヲ罰金又ハ一年未滿ノ禁錮ニ處ス

違法行爲者カ運轉士若ハ機關士ニシテ事情特ニ重大ナルモノアルトキハ運轉士又ハ機關士ノ地位ヲ保持スヘキ其ノ權利ノ行使ニ特別ノ條件ヲ附スルヲ要スル場合特定期間若ハ永久ニ斯ル權利ヲ剝奪スルコトヲ得裁判所斯ル宣告ヲ下シタルトキハ遲滞ナク之ヲ管船局ニ報告スヘシ

第八十條 船舶ニ勤務スル者船長ノ許可ナクシテ船舶又ハ積荷ニ危険ヲ及ホス如キ物品ヲ持込ムトキハ罰金若ハ六月未滿ノ禁錮ニ處ス

第八十一條 充分ナル認識ナクシテ第五十九條ニ從ヒテ爲サルヘキ検査ヲ爲サシメタル者ハ罰金若ハ一年未滿ノ禁錮ニ處ス

第八十二條 右ニ掲クル以外ノ方法ニ依リ勤務上ノ違法行爲アリタル船内ノ勤務者又ハ秩序若ハ紀律ニ違反シタル船内勤務者ハ之ヲ罰金ニ處ス

第八十三條 第七十五條乃至第八十二條ニ掲クル違法行爲ヲ犯シタル者當該行爲ニ付第六十二條ニ從ヒ制裁ヲ課セラレタルトキ裁判所ハ其ノ事情ヲ斟酌シ他ノ場合ニ於ケルヨリモ輕キ制裁ヲ確定シ若ハ全ク之

ヲ免除スルコトヲ得

第八十四條 原告カ起訴ノ爲違法行爲ノ報告ヲ爲シタルニアラサル限り檢事ハ第七十三條第一項第六號、第七十五條、第七十六條、第七十七條(第一項)、第八十一條又ハ第八十二條ニ掲クル違法行爲ニ關シ手續ヲ開始スルコトナシ違法行爲カ一般法ニ基ク制裁ヲ課セラルルモノナルトキ手續ヲ開始スル權利ニ關シテハ一般法ノ規定ヲ適用ス

第八十五條 本法ニ基キ課セラルル制裁ニ關シテハ反對規定ノ存セサル限り一般法ノ規定ヲ適用ス

第七章 雜 則

第八十六條 本法ハ左ノ船舶ニ之ヲ適用セス

- (一) 防備又ハ行政上ノ目的ノ爲ニ使用セラルル國家所屬船
- (二) 遊覽船
- (三) 船舶所有者ノ家族ニ屬スル者ノミノ乗組ム船舶

但シ本法第十條及第十一條ニ定ムル規定ハ行政上ノ目的ノ爲ニ使用セラルル國家所屬船及遊覽船ニ之ヲ適用ス

第八十七條 船舶本國ニ歸還スル航海ヲ爲シツツアルトキ船長ハ合理的報酬ヲ徵收シテ外國ニ殘サレタル芬蘭土海員ヲ運搬スルヲ要ス船長不法ニ之ヲ拒ミタルトキハ之ヲ罰金ニ處ス

第八十八條 船長ハ本法ノ寫ヲ船内ニ備フヘシ船長之ヲ怠リタルトキハ十日未滿ノ禁錮ニ相當スル罰金

ニ處ス

第八十九條 裁判所及海事事件ノ訴訟手續ニ關スル海法ノ規定ハ本法ニ依リ處理スヘキ事件ニ之ヲ適用ス

第九十條 本法ハ一千九百二十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

一千八百七十三年六月九日ノ海法ノ左ニ掲クル規定ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

船長ノ契約及給料ニ關スル書類ノ作成ニ關スル第三十二條ノ規定

第三十五條及第四十二條

乗組員ノ權利及利益ヲ尊重スルヲ怠リタル船長ニ課セラルヘキ制裁ニ關スル第五十條ノ規定

第五十二條ノ第一句、第五十三條第二句、第五十五條及第五十六條第一項

第五十七條乃至第七十九條

第九十一條 本法ノ制定以前ニ制定セラタル法規中前條ニ依リ廢止セラレタル海法ノ規定ヲ參照スルモノアルトキ本法ノ相當規定ヲ之ニ適用ス

芬蘭士船員雇傭契約規則

船舶乗組員ノ雇入及雇止ニ關スル命令、一千九百二十四年十二月二十三日公布、一千九百二十五年六月五日改正、一千九百二十六年四月二十九日改正

九〇

第一條 芬蘭士商船ノ乗組員ハ其ノ船舶カ外國航路ニ從事スル場合又ハ船舶所有者若ハ船長ノ要求アルトキハ雇入契約書ニ署名スルヲ要ス

外國港ニ向ヒ芬蘭士港ヲ出帆セントスル外國船舶ノ乗組員ノ全部又ハ一部カ芬蘭士人ナルトキハ右乗組員ハ同様ニ雇入契約ニ署名スルヲ要ス

第二條 船舶乗組員ノ雇入及雇止ニ關スル署名ハ左ニ掲クル者之ヲ公認ス

(一) 芬蘭士ニ於テハ

海員署 (Seamen's office) 存スル土地ニアリテハ署長 (Sup. rintendent)

其ノ他ノ土地ニアリテハ管船局ノ任命シタル特別登錄官吏

(二) 芬蘭士以外ノ地ニ於テハ

芬蘭士領事ノ駐劄スル地ニアリテハ領事

其ノ他ノ場所ニアリテハ航海中最初ニ遭遇シタル領事又ハ船舶ノ碇泊スル地ノ權限アル官吏

第三條 芬蘭士船舶ノ乗組員芬蘭士ニ於テ契約書ニ依リ雇入レラレタルトキハ左ノ規定ヲ遵守スルヲ要ス

- (一) 職員、準職員其ノ他ノ乗組員ノ國籍及員數ニ關スル現行規定ヲ遵守スルコトヲ要ス
- (二) 海員署ニ於ケル登錄及品行證明書若ハ海員手帖ノ發行ニ關スル現行規定ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス
- (三) 船舶ニ對シ必要ナル職員及準職員ノ正當ナル任命アルヲ要ス
- (四) 海員傷害保險ニ關スル現行規定ヲ遵守シタル證據ヲ提供スルヲ要ス
- (五) 船舶ノ爲ニ食料規定ヲ制定シ若ハ契約スルヲ要ス定メラレタル食料規定ニ對シ除外ヲ認ムル如キ契約ノ締結アル場合ニ於テハ登錄官吏ハ右契約カ文書ヲ以テセラレタルコト並乗組員ヨリ衛生的ニシテ且充分ナル食物ヲ奪フカ如キモノナラサル様監督スルコトヲ要ス
- (六) 船舶ニハ規定ノ航海日誌及時間外労働登錄簿ヲ備フルヲ要ス
- (七) 船舶ニ幼年者ヲ雇入ルルコトニ關スル現行規定ハ之ニ違反セサル様注意スルヲ要ス
- (八) 契約ニ依ル海員ノ雇入又ハ其ノ出航ニ就キ法律上ノ故障存スヘカラス
- (九) 脱船ノ爲刑ノ宣告ヲ受ケ且其ノ刑ヲ終ヘサル者ハ之ヲ雇入ルルコトヲ得ス
- (十) 疾病ノ程度甚シクシテ傳染スル惧アル者其ノ他船舶ノ勤務ニ不適當ナル者ハ之ヲ雇入ルルコトヲ得ス此ノ目的ノ爲登錄官吏ハ雇入レタル海員ノ健康證明書ヲ要求スヘシ本證明書ハ管船局ノ定メタル

様式ニ從ヒ資格アル醫師ノ發行シタルモノタルヘシ

- (二) 雇入ヲ受ケタル者ハ給料手帖ノ交付ヲ受クヘシ
- (三) 登記官吏ハ契約ニ影響スル事項ニシテ其ノ知悉スル事情ニ就キ契約當事者ニ充分知ラシムルヲ要ス
- (四) 船舶内ニ於ケル労働及給料ニ關スル凡テノ必要ナル條件並船長ト雇入ヲ受ケタル者トノ相互關係ハ精確且充分ニ之ヲ定ムルヲ要ス但シ法律ニ規定アルモノ又ハ除外ヲ設クル爲特別ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 雇入ノ署名ハ登録官吏ノ事務所若ハ契約ヲ爲シタル船長及乗組員カ同時ニ出頭ヲ爲シ得ル當事者ノ同意アリタル其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ此ノ目的ノ爲船長ハ

- (一) 船舶國籍證書並現在ノ検査證書ヲ提出スルコト
- (二) 雇入レラレタル海員ノ從事スヘキ航海ノ可成的確實ナル詳細ヲ提示スルコト
- (三) 雇入レラルヘキ海員毎ニ文書ニ依ル契約書ヲ提出スルコト
- (四) 契約ニ從ヒテ作成セラレタル乗組員ノ特別名簿ニ各契約者ノ氏名及住所ニ關スル詳細、登録ヲ受ケタル海員署、船舶ニ於ケル其ノ階級、契約ノ有效ナル航海若ハ期間、契約シタル雇止ノ場所若ハ雇入解除ノ告知期間、契約シタル給料、給料カ航海ヲ單位トシテ定メラレタルトキハ航海期間ノ見積、法律ニ規定ナキトキハ其ノ契約シタル時間外労働ニ對スル報酬並契約ニ於テ規定セラレタル其ノ他

乗組員ノ條件ヲ記載スルコトヲ要ス

右ニ掲クル記載事項雇入ヲ受ケタル者ノ給料手帖ニ記載セラレタル場合ニ於テハ契約書ハ之ヲ提出スルヲ要セス

乗組員自身出頭ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ雇入ハ證人ニ依リテ證明セラレ且右(四)號ニ掲クル記載事項ヲ記載セラレタル契約書若ハ給料手帖ヲ基礎トシテ之ヲ爲スヘシ

第五條 雇入ノ署名アリタルトキハ登録官吏ハ特別登録原簿ニ成規ノ事項ヲ記載シ船舶カ外國港ニ向ケ出航スルモノナルトキハ船舶書類 (Ship's articles) ヲ作成シ然ラサルトキハ船長ニ於テ船舶書類ノ作成ヲ要求セサル限り雇入登録證書ヲ發行スヘシ船舶尙有效ナル以前ニ作成セラレタル船舶書類ヲ有スルトキハ新船舶書類ノ作成ヲ爲サス舊書類ニ必要ナル記載ヲ爲スヘシ船舶書類ノ作成若ハ雇入登録證書ノ發行完了シタルトキ雇入ヲ受ケタル者ハ正當ニ雇入ヲ受ケタルモノト推定ス

第六條 第一號 芬蘭土人芬蘭土ニ於テ外國ニ在ル芬蘭土船舶ニ乗組ム契約ヲ爲シタルトキハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ適用ス但シ船長船舶書類ノ作成ヲ欲セサルトキハ之ニ代ヘテ雇入登録證書ヲ發行スヘシトノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第二號 芬蘭土ニ於テ芬蘭土船舶ニ外國人ヲ雇入ルルトキハ第三條乃至第五條ノ規定ノ關係アル部分ヲ

之ニ適用ス

第三號 芬蘭土ニ於テ外國船舶ニ芬蘭土人ヲ雇入ルルトキハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ適用ス右ノ雇入ヲ受ケタル者トノ契約書ニハ軍務ニ服スル爲雇止ヲ受クル權利ヲ有スルコト並ニ(船舶カ海員ノ救濟ニ關スル相互的條約ヲ締結セサル國家ニ屬スルトキハ)自己ノ重大ナル過失ニ因リ若ハ不可抗力ニ基因シ疾病(傳染期ニアル花柳病以外ノ疾病)ニ罹リ外國ニ殘サル場合ハ其ノ給料ヲ受クル能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シテ六週間ノ範圍内ニ於ケル疾病看護費用、最寄芬蘭土港ヘノ送還費用又ハ海員ノ要求アルトキハ芬蘭土ニ於ケル其ノ居宅マテノ歸航費用ハ船長ノ負擔トスル旨ノ條項ノ記載アルヲ要ス

右雇入手續完了シタルトキハ契約登録證書ヲ船舶書類ニ代ヘテ發行ス
外國船舶ハ契約登録證書ヲ作製シ又ハ當該船舶内ニ芬蘭土人カ使用セラレサルトキハ商務院ノ定ムル所ニ從ヒ船長カ宣誓シ署名シタル保證書ヲ提出スルニ非サレハ芬蘭土港ヲ出帆スルコトヲ得ス但シ船舶カ同一ノ月中ニ同一ノ芬蘭土港ニ歸港シタル場合ニ於テ其ノ船内ノ芬蘭土人ニ付變更ナキトキハ保證ハ一ケ月一回以上要求セラルルコトナシ

第四號 乘組員芬蘭土ノ國外ニ於テ芬蘭土船舶ニ雇入ヲ受ケタルトキハ乘組員ノ芬蘭土人タルト外國人タルトヲ問ハス第三條乃至第五條ノ規定ノ關係部分ヲ適用ス

第七條 雇入ヲ受ケタル海員ノ契約滿了ノトキ又ハ船舶所有者、船長若ハ雇入ヲ爲シタル者契約ノ解除ヲ

要求スルトキハ雇止ハ登録官吏其ノ事務所又ハ契約ニ依リ定メタル其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ船舶所有者又ハ船長海員ノ要求アル場合其ノ雇止ニ異議ヲ申立ツルトキハ登録官吏又ハ海員カ契約、法律若ハ法律的原因ニ從ヒ雇止ヲ受クル權利ヲ有スルヤ否ヲ確ムヘシ

第八條 雇止ヲ爲サントスルトキハ登録官吏ハ海員カ其ノ義務ヲ履行シタルヤ否又海員カ正當ノ待遇ヲ受ケタルヤ否ヲ確カメ且雇止ノ記載ハ之ヲ船舶書類、船舶書類存セサルトキハ登録原簿ニ之ヲ爲スヘシ右ノ記載ハ海員及登録官吏ノ自署シテ證明ヲ爲スヲ要ス

海員正當ノ待遇ヲ受ケサリシト考ヘ又ハ理由アリテ署名ヲ拒ミタルトキハ本條ノ記載ハ船舶書類及登録原簿ニ之ヲ爲シ原簿ニハ拒絕ノ理由ヲ簡略ニ記載スヘシ

第九條 登録官吏ハ雇止ニ關シテ左ノ條件ヲ遵守スル様特別ノ注意ヲ爲スヘシ
雇止ヲ受ケタル海員ノ船中ニ於ケル階級、勤務期間、船舶ノ從事シタル航路、航海中船舶ノ寄航シタル港ニ關シ品行證明書若ハ海員手帖ニ相當記載ノ爲サルコト

船長カ海員ノ行狀及能力ニ關スル證明ヲ品行證明書若ハ海員手帖ニ記入シタルコト
右ノ記載ノ眞實ヲ確保スル爲登録官吏ハ必要ナルトキハ航海日誌ノ提出ヲ要求スルコトヲ得

登録官吏記載ヲ爲シタルトキハ品行證明書若ハ海員手帖ニ與書ヲ爲シ自己ノ氏名ヲ署シ事務所印ヲ押捺シ以テ其ノ記載ヲ證明スヘシ

第十條 雇入ノ際署名シタル海員雇止ニ際シ署名スルコト能ハスシテ勤務ヲ去リタルトキハ船長ハ船舶書類ニ第八條ニ規定シタル記載ヲ爲シ又第九條ノ規定ヲ遵守スルヲ要ス品行證明書又ハ海員手帖ニ爲サレタル記載ハ二名ノ證人ニ依リテ證明セラルルヲ要ス

第十一條 雇入ノ署名カ海員署長以外ノ登錄官吏ノ面前ニ於テ行ハレタルトキハ登錄官吏ハ可成的速カニ雇入レラレタル海員ノ登錄ヲ受ケタル海員署ニ通告ヲ爲シ該海員署ニ保管セシムル爲其ノ受理シタル凡テノ文書ト登錄原簿記載ノ寫ヲ送付スヘシ

一ノ海員署ニ於テ登錄ヲ受ケタル海員他ノ海員署ニ於テ雇入ヲ受クルトキ海員署長ハ其ノ後二週間以内ニ於テ關係海員署ニ、事件ニ關スル特別規定ニ從ヒ氏名登錄簿ノ記載ニ必要ナル詳細事項ヲ通知スヘシ

前數條ノ規定ハ最後ニ掲ケタル雇止ニモ又適用アルモノトス

第十二條 登錄原簿、船舶書類、契約登錄證並契約約款ハ管船局ノ規定シタル様式ニ從ヒ作成スヘシ

第十三條 登錄官吏ハ様式ニ規定セラレタル事項ヲ船舶書類及契約登錄證ニ記入スヘシ

雇入ヲ爲ス場合ニ於テ海員出頭スルトキハ其ノ氏名ヲ自署スヘシ

第十四條 外國ニ在ル船舶ニ乗組ムヘキ海員ノ雇入ヲ芬蘭土ニ於テ行ヒ船舶書類又ハ契約登錄證ニ記載スヘキ事項ヲ記載スルコト能ハサル場合ハ船長ハ船舶ノ碇泊セル地ノ芬蘭土領事、領事其ノ地ニ駐劄セサ

ルトキハ最初ニ遭遇シタル領事ニ依リテ右文書ノ未完了ノ部分ノ填補ヲ受クルコトヲ要ス領事ハ書類又ハ證書ニ記載シタル事項ヲ登錄官吏ニ通知スヘシ

第六條第一號ノ場合ニ於テ船長ハ契約登錄證又ハ船舶書類ヲ當該地駐劄ノ芬蘭土領事、領事其地ニ駐劄セサルトキハ最初ニ遭遇シタル領事ニ對シ提出スヘシ領事ハ契約登錄證ニ記載セラレタル事項ヲ船舶書類ニ記入シ且證書ヲ船舶書類ニ添付シ事務所印ヲ以テ之ヲ割印スヘシ

第十五條 船舶書類ハ一ケ年ノ航行ニ差支ナキ丈ノ丁數ヲ備フヘシ但シ乗組員トノ契約カ法律ニ從ヒ其ノ以前ニ於テ滿了トナルトキ又ハ船舶カ外國人ノ所有ニ歸スルトキハ船舶書類ハ無効タルヘシ

無効トナリタル船舶書類ハ場所ノ如何ヲ問ハス權限アル登錄官吏之ヲ保管スルヲ要ス、雇止カ雇入ノ行ハレタル海員署以外ノ海員署ニ於テ行ハルルトキ又ハ特ニ任命セラレタル登錄官吏若ハ領事ノ面前ニ於テ行ハルルトキハ右書類ハ船舶登錄港ノ海員署ニ之ヲ送付スヘシ

海員署長ハ船舶書類ノ受理後二週間以内ニ氏名登錄簿ニ雇止ヲ受ケタル者ヲ記載セシムル爲權限アル海員署ニ雇止ヲ受ケタル者ヲ通知スルヲ要ス

第十六條 本法ニ基キ發セラレタル文書及公ノ職務ニ對シテハ左ノ手数料ヲ徵收ス

「船舶書類」

芬蘭土馬克

(イ) 基礎手数料

二五、〇〇

(ロ) 船舶ノ登簿噸數一噸ニ付

一〇、一〇〇

(ハ) 船舶書類ニ記載セラレタル海員一名ニ付

五、〇〇〇

契約登録證カ既ニ發行セラレタル船舶書類ニ記載セラレタルト

(イ) 基礎手數料

一〇、〇〇〇

(ロ) 船舶書類ニ記載セラレタル海員一名ニ付

一〇、〇〇〇

契約登録證カ船舶書類ノ代リニ發行セラレタルトキハ船舶書類ニ對スルト同一額ノ手數料

給料手帖

五、〇〇〇

「雇止」

芬蘭土馬克

一、乗組員ノ半數以上

(イ) 基礎手數料

二五、〇〇〇

(ロ) 船舶ノ登簿噸數一噸ニ付

〇、一〇〇

(ハ) 雇止海員一名ニ付

五、〇〇〇

二、乗組員ノ半數以下又ハ一名ノ海員

(イ) 基礎手數料

一〇、〇〇〇

(ロ) 雇止海員一名ニ付

一〇、〇〇〇

地方ニ於ケル慣習的執務時間外ニ於ケル雇入又ハ雇止ニ對スル追加手數料

三〇、〇〇〇

第十七條 本法ニ基ク文書及公ノ職務ニ對スル手數料ハ登録官吏ニ歸屬ス但シ右官吏海員署長ヲ兼ヌルト

キハ船舶ノ噸數ニ對シテ支拂ハサルヘカラサル手數料ノ半額ハ海員署ニ歸屬ス

外國ニ駐劄スル芬蘭土領事ニ依リテ徵收セラレタル手數料ニ關シテハ特別ノ規定ヲ定ム

第十八條 管船局ハ海員カ雇入ヲ受クル場合ニ提出セサルヘカラサル診斷書ノ形式及有効期間ニ關シテ必

要ナル規定ヲ定ム

商工省ハ本令ノ適用及施行ニ關シ必要ナル更ニ詳細ナル規定ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 本令ノ規定ニ違反シ又ハ之ヲ懈怠シタルモノハ二百日以下ノ禁錮ニ相當スル罰金ニ處ス

第二十條 本法ハ一千九百二十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

芬蘭土ニ於ケル海員署ニ關スル一千八百七十四年四月三十日ノ法令ニ於ケル凡テノ規定ハ船舶乗組員ノ雇入及雇止ニ關スル限度ニ於テ之ヲ廢止ス右ニ掲クル規定ノ修正若ハ説明又ハ増補ヲ包含スル官廳ノ定メタル法令及規定並本令ニ基キ發セラレタル若ハ爲サレタル文書及公ノ職務ニ對スル手數料ニ關シ既ニ定メラレタル凡テノ規定ハ之ヲ廢止ス

○船舶遭難ノ場合動産ヲ喪失シタル芬蘭土人乗組員ニ爲ス
賠償原則ニ關スル樞密院ノ決議

(千九百二十四年十二月二十二日公布)

第一條 船舶難破シタル場合船舶所有者又ハ船長ニ依リ雇入ヲ受ケタル乗組員ハ左ノ額ニ達スル迄(更ニ多額ノ賠償契約カ締結セラレ又ハ動産ノ代償費用カ更ニ少額ナリト認メラルル場合ヲ除ク)動産ノ喪失ニ對シ船舶所有者ヨリ賠償ヲ受クヘシ

(イ) 生存乗組員	内國航路船舶 沿岸航路船舶	バルチック海 路船舶	遠洋航路船舶
一、船長	五、〇〇〇 <small>芬蘭土馬克</small>	八、〇〇〇 <small>芬蘭土馬克</small>	一、二、〇〇〇 <small>芬蘭土馬克</small>
二、一等運轉士又ハ機關長	四、〇〇〇	六、五〇〇	一〇、〇〇〇
三、其ノ他ノ運轉士、其ノ他ノ機關士、無線電信技士、司厨長	三、五〇〇	五、五〇〇	八、〇〇〇
四、掌砲長、水夫長、大工	三、〇〇〇	四、五〇〇	六、〇〇〇
五、其ノ他ノ甲板部乗組員、機關部乗組員及其ノ他ノ乗組員	二、五〇〇	三、五〇〇	四、五〇〇

(ロ) 生存セサル者

- 一、船長 芬蘭土馬克 二、〇〇〇
- 二、其ノ他ノ者 一、〇〇〇

但シ登簿噸數四百噸未滿ノ沿岸航路ニ従事スル貨物船、内國航路ニ従事スル貨物船、規定最高乗組員數百名未滿ノ内國航路旅客船ニ乗組ム右(イ)ノ第一號乃至第四號ニ掲クル者ニ對シテハ賠償ハ右ノ者カ其ノ階級ニ於テ受クル金額ノ次位ノ金額ヲ以テ其ノ額トス

第二條 賠償ヲ受クル權利ヲ有スル者證書、書籍、道具又ハ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル其ノ他ノ携帶品ヲ喪失シタルトキハ反對ノ契約ナキ場合之等ノ物件ヲ買戻ス費用ニ相當スル特別ノ賠償金ヲ受クヘシ

第三條 船舶所有者ハ喪失シタル動産ニ對スル賠償金ノ支拂ニ代ヘテ動産ヲ交付スルコトヲ得

○船舶運送ノ組合動産ヲ喪失シタル其高士人乘組員ニ爲ス
賠償原則ニ關スル樞密院ノ決議

(一九二四年七月二十一日公布)

6710
14

第一條 船舶運送ノ組合動産ヲ喪失シタル其高士人乘組員ニ爲ス
賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第二條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第三條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第四條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第五條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第六條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第七條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第八條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第九條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ
第十條 賠償ノ責任ハ該組合ニ在リ

寄贈

衆議院
12.4.10
圖書館

昭和四年七月十八日印刷
昭和四年七月二十日發行

發行者 遞信省管船局
印刷者 遞信省經理局

6710
14

印
臘
香

紙
計
省
錫
既
鼠

發
計
香

紙
計
省
管
備
鼠

印
味
四
羊
子
月
二
十
日
發
計

印
味
四
羊
子
月
十
八
日
印
臘



